

# Spiritualism News Letter

2001  
第 14 号  
7月1日発行

スピリチュアリズム・ニューズレター

発行／スピリチュアリズム・サークル 心の道場

発行人／小池里予

〒441-3141 愛知県豊橋市大岩町字北山468-1

TEL 0532-41-0537 FAX 0532-41-8257

ホームページアドレス <http://www5a.biglobe.ne.jp/~spk/>

今号の内容

- ・「スピリチュアル・ヒーラーグループ」による無料ヒーリングのお知らせ……………1
- ・スピリチュアル・ヒーリングと気功治療との違い……………13
- ・スピリチュアル・ヒーリングから見たホリスティック医学……………20
- ・ビデオ「地球人類の霊性進化の道“スピリチュアリズム”」  
— 霊的真理のエッセンス・真理編より紹介……………25

## 「スピリチュアル・ヒーラーグループ」 による無料ヒーリングのお知らせ

### 1 「日本スピリチュアル・ ヒーラーグループ」について

#### 19名のヒーラーによるヒーリング奉仕

日本スピリチュアル・ヒーラーグループでは、シルババーチの霊訓や優れた霊界通信を人生の指針とするヒーラーによって、約15年前から、純粋なスピリチュアル・ヒーリングを実践してきました。

「心の道場」のメンバーが、スピリチュアリズムの普及の一環として無料で行っているものです。グループは、北九州・名古屋・豊橋・浜松・東京に在住の19名のヒーラーによって構成されています。

そのヒーラーのいずれもが、これまで10年以上にわたる厳しい訓練を耐え、「霊界の道具」に徹して歩んできました。彼らは、ニューズレター（7号）で述べた本物のスピリチュアル・ヒーラーとしての道を忠実に実践してきました。そして現在、ひたすらスピリチュアリズムの真理普及と人々への奉仕に励んでいます。



#### ヒーラーグループのこれまでの活動

日本スピリチュアル・ヒーラーグループでは、これまで主として縁のあった方々にヒーリングを行ってきました。またその一方で、定期的（月1度）に現代医学の病院に赴き、医師の了解のもとで、スピリチュアル・ヒーリングの奉仕を実践してきました。もちろんそこでのヒーリングの対象者は、自らスピリチュアル・ヒーリングを希望する人達です。

正規の病院において、このような形で堂々と心霊治療が行われているのは、おそらく日本では初めてのことであろうと思います。

#### イギリスのスピリチュアル・ヒーリングの実情

現在、スピリチュアル・ヒーリングが最も進んでいると言われるイギリスでは、一般の病院でスピリチュアル・ヒーリングを受けることができ、保険も適用されるようになってきました。チャールズ皇太子のバックアップにより、ガン患者のために設立されたブリストル病院は、患者の希望に応じてスピリチュアル・ヒーリングを行うことでよく知られています。

しかしイギリスにおける心霊治療の実態は、内容的には本来のスピリチュアル・ヒーリングとは大きく懸け離れています。「霊界の医師が主役となって

治療を行う」というスピリチュアル・ヒーリングの大原則さえ知らないヒーラーが多いのが実情です。現在のイギリスでは、心霊治療という言葉は、日本における代替医療の意味合いで理解されています。心霊治療の本場イギリスにおいても、ハリー・エドワーズのような本物のスピリチュアル・ヒーラーは稀にしか存在しません。

### 日本のスピリチュアル・ヒーリングの実情

日本では最近になって、一部の人達の間でスピリチュアル・ヒーリングの名称で治療が行われるようになってきました。しかしその実態となると、スピリチュアル・ヒーリングの名を借りた金儲けとしか言いようのないものばかりです。純粋な奉仕の行為どころか、治療という点から見ても、あまりにも安易でいい加減なものがほとんどです。

そうした中で、「日本スピリチュアル・ヒーラーグループ」は、まさに霊界の道具に徹する純粋なヒーラーの集まりであり、スピリチュアリズムの意向にそったものと言えます。

### スピリチュアル・ヒーリングの公表へ

これまで「ヒーラーグループ」におけるヒーリングでは、奇跡と言ってもよいような多くの治療実績を上げてきました。気功治療や手かざし・浄霊治療などは、足元にも及ばないような目覚ましい成果を上げてきました。しかしスピリチュアル・ヒーリングは、どこまでも霊的真理の伝道のために行うものとの考えから、こうした世間受けするような事実を公表しないまま現在に至りました。

しかし今、スピリチュアリズムが高いレベルで全国展開しようとする時を迎え、その普及にさらなる貢献をしたいと願い、グループの存在と活動を公表することにしました。



## 2 「日本スピリチュアル・ヒーラーグループ」の目的

スピリチュアル・ヒーリングの真の目的は、ヒーリングを通じて一人でも多くの方々に、死後の世界である「霊界の存在」と、「死後の永遠の生命」について知らせることです。霊界の医師による治療を通じて、本当に「霊的な影響力がある」ことを、地上人類に示すことです。これまで“死”によってすべてが終わると考えていた人が、霊的世界があることを受け入れるならば、霊的覚醒がもたらされることとなります。

シルバーバーチは——「スピリチュアル・ヒーリングにおいては、病気そのものを治すことより、霊的自覚をもたらすことの方が重要である」と述べています。当ヒーラーグループも、そうしたシルバーバーチの意向に従い、「ヒーリングの第一の目的は、霊的自覚・霊的覚醒を促すことにある」と考えています。すなわち病気を治すことより、ヒーリングを通じてスピリチュアリズム普及の手助けをすることが、最も重要であると考えています。

## 3 スピリチュアル・ヒーリングの申し込み方

当ヒーラーグループでは、これまで直接ヒーリング・遠隔ヒーリングの双方を行ってきましたが、今後は原則として、「遠隔ヒーリング」を中心に進めていくことにします。全国の方々を対象にヒーリング奉仕を実践していくについては、遠隔ヒーリングの方が効率が良いからです。

直接ヒーリングであれ遠隔ヒーリングであれ、治療結果に大差はありません。結果を左右するのは、「治るべき時期がきているかどうか」という患者本人の内容なのです。

ヒーリングを希望される場合は、まず初めに、電話かファックス、または手紙で申し込みをしていた

できます。申し込みを受け次第、スピリチュアル・ヒーリングについて簡単な説明を記したパンフレットをお送りします。依頼者や患者の皆さんには、それを読んでスピリチュアル・ヒーリングに関する基本を確認したり、予備知識を持っていただきます。またスピリチュアル・ヒーリングへの理解を深めていただくための、ビデオテープの無料貸出しもしています。（\*送料のみ負担していただきます。）

その後、改めて正式な申し込みをしていただきますが、その際には、患者の名前・住所・年齢・病歴などを記入し、写真を添えて送っていただきます。

（\*正式な申し込み書は、パンフレットと一緒に送ります。）

申し込み書を受け取り次第、ヒーリングの日時と注意事項を記したメモを送付いたします。こうした手続きをへて、ヒーリングを開始します。

以上を整理すると、次のようになります。

**最初の申し込み** TEL・FAX・手紙



**パンフレット・申し込み書 送付**

▼ (グループから)

**正式申し込み** 名前・住所・年齢・病歴・写真



**日時・注意事項の記載メモ 送付**

▼ (グループから)

**ヒーリング開始** (3~4回)

●連絡先

**日本スピリチュアル・ヒーラーグループ**

〒458-0814 愛知県名古屋市緑区鶴が沢2-1005

**TEL・FAX 052-526-0434**

世話人 小川・谷口まで

ホームページアドレス

<http://www.ne.jp/asahi/sph/hg/>

スピリチュアル・ヒーリングでは、ヒーリングを受けていることを、患者本人が必ずしも知る必要はありません。患者以外の方の申し込みであっても、ヒーリングを開始することができます。たとえヒーラーと患者の間に一面識がなくても、第三者を通して依頼があった時点において、霊的パイプが成立することになります。

しかしこれまでの経験からすると、患者本人に自覚があれば霊的エネルギーが受容されやすくなり、治療効果が高まるようです。当ヒーラー・グループにおけるヒーリングは、すべて「霊界の医者」が進めていきますが、その事実を、ぜひ知っていただきたいと考えています。

したがって患者本人の知らないところで、皆さんが代わってヒーリングを申し込まれても一向にかまいませんが、その際は、どうか皆さん自身が相手の方に、「スピリチュアル・ヒーリング」とはどのようなものかを説明してあげてください。お送りしたパンフレットと一緒に読んだり、貸出しビデオテープを活用していただきたいと思います。

ヒーリングを受けられる方は、指定された時間に瞑想したり横になったりして、受け身の姿勢をとってください。ヒーリングは日をおいて3~4回ほど行います。状況によっては、複数のヒーラーが同時に遠隔ヒーリングをすることもあります。ヒーラーの体質や流せるエネルギーの質が、それぞれに異なるからです。



## 4 ヒーリングの結果について

### ヒーリングの結果は、一人一人異なる

スピリチュアル・ヒーリングを受ける人は、誰もがすぐに病気や障害が治ることを期待します。しかし病気の原因は人それぞれ違いますし、また霊的背景もさまざまです。そのため同じスピリチュアル・ヒーリングを受けても、その結果は一人一人異なることとなります。

ある人はわずか数分の治療だけで、10年来の病気がたちどころに治るといった奇跡が起こることがあります。また治療時点では変化がなくても、3日後、1週間後、さらには3カ月後に劇的な変化が現れることもあります。その一方で、何の変化も見られない人もいます。ただしこの場合でも、目に見える形で結果が現れないというだけで、霊的身体には、それなりの大きな変化が生じています。

スピリチュアル・ヒーリングにおいては、霊的には必ず何らかの影響力が及んでいますが、それが患者本人が自覚できるような形で現れるかどうかは、患者サイドの要因によって決まります。実際に病気や障害が治るのか、あるいは潜在的なレベルにとどまるのかは、すべて患者の「カルマ」によって決定されます。

つまり患者本人の、霊的エネルギーの受容性の問題なのです。スピリチュアル・ヒーリングが功を奏して病気が治るためには、患者に霊的エネルギーを取り入れるための、「霊的な窓」が開いていることが絶対的な条件となります。患者の中には、窓が大

きく開いている人と、少ししか開いていない人がいるということです。「霊的な窓」が開いている人には、治療エネルギーがふんだんに流れ込み、それによって病気が治るようになります。しかし窓が少ししか開いていない人は、どれほどヒーリングを受けても、治療エネルギーが身体の深部に入っていけないため、病気は治りません。

このようにスピリチュアル・ヒーリングの結果は人さまざまであり、それがどのように現れるのかは、やってみなければヒーラー自身にも分からないのです。ヒーラーは、ただ「霊界の道具」として、霊界から送られてくる治療エネルギーの通過体として、無心になることだけが要求されているのです。

### “死”はヒーリングの失敗ではない

当グループのヒーラーは、“死”を悲劇とは考えていません。時には、患者がスピリチュアル・ヒーリングを受けた直後に死に至るようなこともあります。たとえそうした結果になったとしても、そのヒーリングが失敗であったとか、無駄になったというわけではありません。なぜならスピリチュアル・ヒーリングによって、患者の霊体と魂には大きなプラスの影響力が及んでいるからです。死の直前における苦痛が和らげられたり、霊体と肉体の分離がスムーズに行われるようになるなど、目には見えないけれども、必ず何らかの変化がもたらされています。

スピリチュアル・ヒーリングの結果がどうであれ、すべてを良いものとして受け入れることが大切なのです。



## 「靈的覚醒」こそが、スピリチュアル・ヒーリングの真価

すでに述べましたが、スピリチュアル・ヒーリングの真の目的は、患者の「靈的覚醒」にあります。患者がヒーリングをきっかけにして靈的世界に目覚めるならば、それはヒーラーにとって何より喜ばしい出来事であり、そのヒーリングは成功したと言えます。たとえ病気が治らなかったとしても、ヒーリングの目的は成し遂げられたことになるのです。その反対に、病気が奇跡的に癒されたとしても、患者の内面に何の変化も生じない場合には、そのヒーリングは失敗ということになります。

靈的視点の全くない一般の人々と、すべてを「靈的視点」から眺めようとするスピリチュアル・ヒーラーとでは、病氣と治療に関する判断は根本的に異なります。

現代医学に見放された患者が、スピリチュアル・ヒーリングによって奇跡的に治癒するといったことは頻繁に生じますが、その中で、本当の靈的自覚を持てるようになる人となると、残念ながらごくわずしかいません。ほとんどの人は病氣が治ったことだけを喜び、「靈的覚醒」にまで至る人は、何十分の一にも満たないのが実情なのです。

そうした現実には、ヒーラーにとっては誠に悲しいことですが、すべて「靈界の道具」に徹する立場にあっては、それ以上の私情を持つことは許されません。スピリチュアル・ヒーラーの背負うべき重荷として耐えていかなければなりません。

## ヒーリングの“治癒率”に、異常にこだわる人々

スピリチュアル・ヒーリングを希望される方が多く、これまでの“治癒率”をさかんに知りたがりです。スピリチュアリズム関連の書物の中には、ヒーリングの治癒率について述べているものもあります。しかしスピリチュアル・ヒーリングの本質を理解してみると、単純に治癒率を挙げつらうのは間違いであることが分かります。

治療を依頼してくる方々の関心は、ただ肉体の病氣が癒されることだけにあります。「病氣が治れば、

それでいい」というのが大半の人々の本音です。中には極めてエゴ剥き出しのまま、「駄目でもともと、治れば儲けもの」くらいの気持で、冷やかし半分に依頼してくる人もいます。

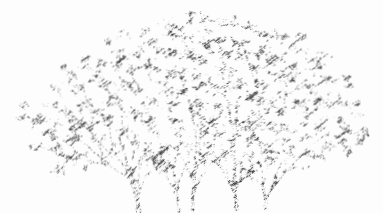
「御心ならば、どうぞ治してください」というような、内省的な姿勢・謙虚な心でヒーリングを依頼してくる人はめったにいません。

## 治るか治らないかは、患者サイドの問題

カルマ（靈と肉とのアンバランス・不調和）によって生じている肉体レベルの病氣を解消させるには、患者本人が、靈的エネルギーをしっかりと取り入れられるだけの靈的レベルに至っていることが必要です。すなわち、「治るべき時期がきている」ことが必須条件となります。そうした人においては、スピリチュアル・ヒーリングによって目を見張るような結果がもたらされることとなります。何十年も苦しんできた難病や、どこの病院に行ってもお手上げだった病氣が、たちどころに癒されることとなります。スピリチュアル・ヒーリングを依頼してくる大半の人々が、こうした「奇跡的治癒」だけを期待しています。

しかし再度述べますが、ヒーリングによってすぐに治るかどうかは、患者サイドの問題であるということなのです。病氣で苦しんでいる人が良い結果を願うのは当然でしょうが、それが得られるかどうかは、患者の靈的内容によって決まるということなのです。

このようにヒーリングの結果は患者の「カルマ」によって決定するのですが、多くの人々はその事実を全く理解していません。そしてただ一方的に、ヒーラーに期待を寄せるのです。そうした人に限って、これまでのヒーリングの“治癒率”にこだわるのです。それに対するヒーラーの答えは、「やってみなければ分かりません」ということ以外にはないのです。



## “治癒”についての一般人の誤解

また大半の人々は、“治癒”ということについても正しい認識を持っていません。例えば、気功・鍼灸・カイロプラクティックなどの治療を受けた際に、治療師の生体磁気が患者に流され、一時的に症状が消えることがあります。多くの民間療法では、この手の治療効果が患者の体験談を通してさかんに述べられ、PRに利用されます。

しかし実際に症状が消えるのは、ほんのわずかな間にすぎません。1カ月後、あるいは2カ月後には、ほとんどの人がまた病気をぶり返しています。何とか病気から逃れたいと思い詰めている患者は、たとえ一時でも良くなれば奇跡が起こったかのように錯覚してしまいます。しかし冷静に考えれば、こうしたケースを治癒の症例の中にも含めるのは、おかしいことに気がつくはずで、そこにあるのは、患者の無知につけ込んだ“商業主義”だけなのです。

## スピリチュアル・ヒーリングの治癒率とは？

スピリチュアル・ヒーリングによって霊的エネルギーが患者の体内に注ぎ込まれると、どのような人においても必ず何らかの変化が生じます。それが患者にとって明らかに自覚できるような肉体的変化として現れるのか、精神的レベル、霊的レベルにとどまるのかは、一人一人の内容によって異なります。ヒーリングの結果は、患者本人の「カルマ」によって制約されるということです。

しかし肉体レベルの不調（病気）が解消されるまでには至らない場合でも、霊体のエネルギー状態が高められ、霊体と肉体のバランスが以前とは比較にならないくらい改善されるのが普通です。こうした霊体に対する影響を含めて考慮するならば、「スピリチュアル・ヒーリングの効果は間違いなく100パーセントある」と断言することができます。

とは言っても、霊的視点を持たないところでは、本当の治療効果を理解することはできません。霊的視点を持たない人々が、スピリチュアル・ヒーリングの“治癒率”を論じること自体、意味のないことなのです。



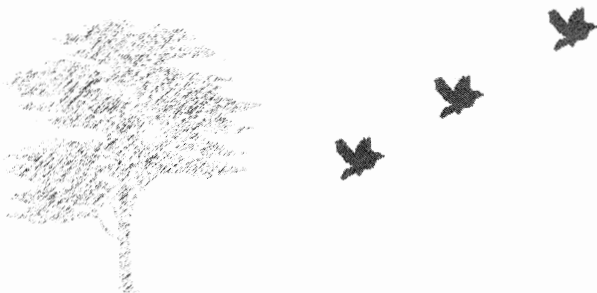
## 5 スピリチュアル・ヒーリング を受ける前に、各自でして いただきたいこと

単純な物質次元の対処の方が、効果的な場合もある

常に「霊主肉従」を高いレベルで保ち、必要な霊的エネルギーを自由に取り入れることができるほどの人ならば、どのような肉体の病気も自分で治すことができます。霊的エネルギーを充電することで肉体に内在する自然治癒力を引き出し、短期間に健康を回復できるはずです。

ところで、スピリチュアル・ヒーリングで治せる病気とは、どのようなものなのでしょう。すなわち、「スピリチュアル・ヒーリングの対象となる病気は？」ということなのです。

シルバーバーチは理屈の上からは、すべての病気は心霊治療で治すことができると述べています。そしてその一方で、純粋な物質次元の原因によって引き起こされた病気には、心霊治療よりも物質的な対処の方が効果的であると述べています。物質次元・肉体次元の原因による病気を解消するには、まず物質的な原因を取り除くことが必要であるということなのです。これは不調和の次元が、霊肉両次元にわたるものか、単に肉体次元に限られたものであるかによって、治療法を使い分けた方が効果的であるということです。スピリチュアル・ヒーリングでは、注入された霊的エネルギーが、人間に本来備わった治癒能力や免疫機能を活性化させることとなりますが、そうした治癒のプロセスを期待するより、病気の直接的な引き金となっている物質的な原因を、先に取り除く方が有効であるということになります。



病気を引き起こしている、物質次元の原因を取り除く

病気を引き起こしている物質次元の原因として、「間違った食生活」「環境汚染物質の体内蓄積」「運動不足」「過労」などが挙げられます。こうしたものについては、スピリチュアル・ヒーリングを受ける前に、各自が個人の責任として取り除いておくべきです。現代人は、肉体次元での不調和を引き起こす原因を、あまりにも多く作り出しています。そのために、地上へ生まれた時点において与えられている寿命を全うできなくなったり、無用な病気の苦しみを抱えながら、寿命の期間を生き続けなければならなくなっています。

どのような原因であれ“苦しみ”があるということは、神のつくられた摂理との不一致があることを示しています。大半の現代人は、肉体管理という当然の義務を怠り、自分自身で病気をつくり出しているのが実情です。

### 間違った現代型食生活を正す

現代人が自ら病気を招いている物質レベルでの最大の原因は、「間違った食生活」にあります。商業主義によって躍らされ、大半の人々は健全な伝統的食生活を失ってしまいました。加工食品・インスタント食品の大量摂取、肉・動物性食品の多食、油料理・砂糖の過剰摂取に代表される「欧米型食生活」は、自然な在り方から大きく懸け離れています。

霊性の鈍さが、肉体的本能だけを満たしたいという傾向に拍車をかけることになり、さらに悪い食べ物を求めさせ、悪循環を大きくしています。大半の現代人の食生活は、肉欲支配によって引き起こされた野獣的本能を満足させるものとなっています。そうした食生活の狂いが必須栄養素の欠乏を引き起こし、栄養障害による全身退化病・生活習慣病を招いているのです。スピリチュアル・ヒーリングを受ける前の肉体管理の手始めとして、まず健全な食生活を取り戻さなければなりません。

多くの不自然さになじんでいる現代人にとって、食生活の改善にはストイックな厳しさが伴うことになります。しかしそれはある面では霊的修行であり、

魂の鍛練のチャンスとなります。食事を正常化するための努力は、すべての現代人に必要とされています。ガン・心臓病・脳卒中・糖尿病などの成人病には、実際、「徹底した食生活の改善」が大きな治療効果をもたらすのです。

### 環境汚染物質を排除する

また有害ミネラルや食品ケミカルなど、さまざまな「環境汚染物質の体内蓄積」による障害が、最近、大きな社会問題となっています。こうした環境汚染の背景には、現在の地上人類全体に係わる、「物質主義とエゴイズム」という大きなカルマの問題があります。私達現代人は、自分達がつくったカルマから生じる苦しみを、否応なく受けていかなければなりません。

本来、こうした有害物質は一定の限度内ならば、体に備わった恒常性維持機能や免疫システムの働きによって自然に排泄されるようになっていきます。しかし現代では、あまりにも環境汚染が進み、人体の自然な回復能力を超えています。

生活環境全体が汚染されている現在では、体内に入ってくる有害ミネラルやケミカル毒素を完璧に遮断することはできません。しかし最新の栄養学によれば、体内蓄積した毒素を、多種類の解毒栄養素を用いて有効に排泄させることができます。また健全な食事と適度な運動が、体内毒素の排泄を促すことも明らかにされています。

### 運動不足や過労を解消する

また「運動不足」による筋力低下によって、ヒザ痛・腰痛・肩凝りなどが引き起こされます。これらの症状には、筋力強化の運動やストレッチなどが効果的です。実際、スピリチュアル・ヒーリングを行うより短時間に癒されます。単なるウォーキングや水泳ではなく、弱化している特定の筋肉に10秒ほど集中的に負荷をかけて強化すれば、痛みはたちまち軽減します。

また限界を超えて肉体を酷使すれば、肉体は調和を崩し病気になります。必要な休養を取ることは、当たり前の肉体管理なのです。物質中心の人生観を

変え、お金や物だけに執着しなくなれば、体を壊してまで働くことはなくなるはずで、「オーバーワーク」から生じた病気や障害に対しては、肉体を休めることしか方法はありません。それをせずに、スピリチュアル・ヒーリングに頼ろうとすべきではありません。スポーツのやり過ぎで運動器官を痛めた場合も休むしかありません。

### 生活スタイル・食生活改善のためのアドバイス

以上のような事情があるために、当ヒーラー・グループでは、スピリチュアル・ヒーリングを希望される方に対して、生活スタイルや食生活の改善についての指導も行っています。スピリチュアル・ヒーリング以前の問題が、あまりにも多いからです。

幸いなことにグループのヒーラーの中には、現役の治療師・現代栄養学（分子矯正医学）の専門家・看護婦が含まれています。必要に応じて、そうした専門知識を持ったヒーラーのアドバイスを受けることも可能です。

また健康についての知識を深めていただくために、健康・栄養学関連の良書を推薦しています。ガン・心臓病・脳卒中・糖尿病・アトピーなど、猛威を奮っている現代生活習慣病は、物質次元での間違い——特に「食生活の間違い」が大きな原因となっています。こうした慢性疾患に対して、臓器主義・唯物論に立った現代医学では根本治療を行うことができません。一方、最新の栄養学ではより根源的な対処をすることによって、大きな実績を上げています。ガンについてはゲルソン療法などの徹底した栄養療法が知られ、現代医学では足元にも及ばないような目覚ましい成果を上げています。

もちろんそうした良い結果は、これまでの食生活を根本から改めた人だけが手にしていることは言うまでもありません。間違った食生活が病気の原因となっている以上、それを続けながら、スピリチュアル・ヒーリングによって病気を治そうというような甘い話はどこにもありません。最低限の間違いを正す自己努力をしないならば、いつまでも苦しみを引きずっていくしかないのです。



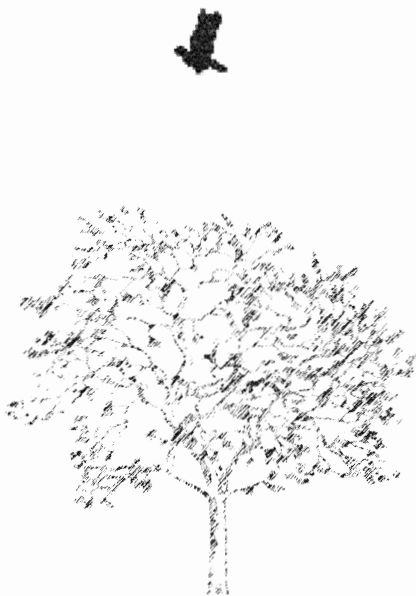
## 6 病院との上手な付き合いを

### 絶望的な患者こそ歓迎

スピリチュアル・ヒーリングを希望する大部分の人々は、何軒もの病院にかかったり、さまざまな民間療法を試みています。そしてそれらのすべてが失敗に終わり、最後の手段としてスピリチュアル・ヒーリングにすがってきます。中には現代医学ではなす術もないような深刻な状態・末期的な状態で、ヒーリングを申し込んでくる人もいます。それはスピリチュアル・ヒーリングの性質上、当然のことと言えます。

スピリチュアル・ヒーリングが、現代医学の手段が尽きた患者を相手にできるということは、むしろ好ましいことです。なぜなら中途半端な状態でヒーリングを受けて病気が治れば、ヒーリング以外の別の要因で治ったのかも知れないと思うようになるからです。医者に見放された患者が、スピリチュアル・ヒーリングという唯一の方法で急激に治癒したということになれば、スピリチュアル・ヒーリングが功を奏したことは明白になります。

その意味で、当ヒーラー・グループでは、絶望的な状況下にある患者の依頼を歓迎しています。



### 病院へ行くより先に、最低の自己管理を

先に述べましたが、現代では多くの人々が身体の管理不足から不調和を引き起こし、自分自身で病気をつくり出しています。前世のカルマとは無関係なところで、自ら招いた無意味な病気で苦しんでいるのです。こうした人は病院へ行くよりも先に、これまでの生活を正すことが必要とされます。

現代人は、神の与えてくださった「自然治癒力」をわざわざ抑圧するようなことばかりしています。本当は間違った生活スタイルを変え、食生活を質素で健全なものに改めるならば、たちまち自然治癒力が働くようになるのです。そして、それにつれて病気は好転していきます。これはカルマが消滅し、治るべき時期がきたために治癒したということではありません。本来、身体に備わっている自然治癒力が、力を発揮できる領域にまで回復したということなのです。

### 現代医学に頼るべき病気

唯物主義を土台とした現代医学が、本当に人類のために貢献できる領域は限られています。私達が現代医学に頼るのは、緊急の外科的対処・感染症対策が必要なときです。

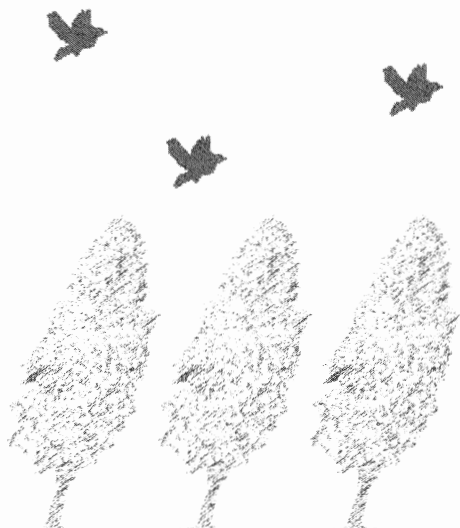
人間の体には免疫システムという、外敵（ウイルス・バクテリアなど）から身を守る万全の態勢が備わっています。それにもかかわらず感染症に侵されるということは、そのシステムが十分に力を発揮できないほど身体が弱化しているからです。迎え撃つシステムが正常に機能しないために、外敵の侵入を許し、感染症を引き起こすことになるのです。

それに対する根本的な対策は、体質強化を図ることに尽きますが、すでに外敵が体内に侵入して繁殖し、死に直面しているような事態に至っては、外敵そのものをストレートに薬品（抗生物質など）によって叩くことが必要となります。外敵を叩き、その間に免疫システムや自然治癒力が回復すれば、病気は治ることになります。こうした意味で、現代医学の必要性があるのです。

## 病院に行くことが、マイナスになることもある

現代医学は自然治癒力に協力するどころか、逆にこれを痛めつけ、病気を長引かせるようなことをしています。従来の感染症対策の成功方式を、そのまま全身退化病や生活習慣病などに応用しようとしているために、これらの病気に対して、ほとんど無力な状態に置かれています。現代医学が、「自然治癒力を高める」という治療の大原則を無視した偏った医学である以上、これに過剰な期待をすべきではありません。頼るべき時と、そうでない時を、賢明に使い分けることが大切なのです。

現代医学は、感染症対策のようなケースを除いては、むしろ自然治癒力を抑えつけ、病気をこじらせてしまっているのが実情です。最近では、ガン通常療法である薬物療法（抗ガン剤）や放射線療法が、かえって人体にマイナスの結果をもたらすことが明らかにされています。医者自身がそうした治療法の無意味さをよく知っていて、自分がガンになったときには、こっそりと他の療法に頼っているという話を耳にすることがあります。現代医学の治療法によって自然治癒力が痛めつけられ、病気の回復を遅らせるようなことが実際にあるのです。



## 7 病気は治ってもよし、治らなくてもよし

### 「カルマ」による病気の治癒

カルマとは前世でつくった「霊肉のアンバランス性」ならびに、それから派生する「霊的な歪み・未熟さ」のことです。地上における病気は、こうしたカルマを清算して霊的成長を促すために、必要な苦しみの体験として引き起こされます。病気の苦しみを通してカルマが消滅し始めると、病苦の体験も不要となります。すると自動的に病気も治ることになります。つまり、「治るべき時がきて、病気は癒される」ということです。

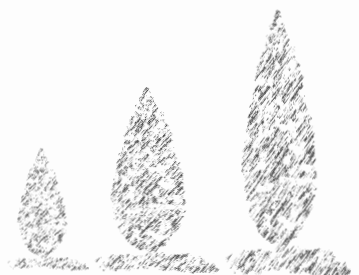
それを身体的に見れば、これまで十分に働かなかった自然治癒力が活性化し、病気が治ることになります。あるいは、その症状を取り除くことができる治療師や医者の所に足を運ぶことによって、癒されるということになります。

### カルマとは無関係な病気の治癒

#### — 単なる「自然治癒力」の回復

身体管理・生活スタイルを改善することで「自然治癒力」が蘇り、病気が治癒するような場合は、前世からのカルマが切れたということではありません。それは、この地上生活でつくった不調和（\*地上限りのカルマとも言えますが……）が正され、神の与えてくださった健康維持装置が健全に働くようになったということです。また病院に行って病気が治った場合もこれと同様で、単に自然治癒力の働く領域内に戻ることができたためと考えるべきです。

すべての病気が、前世のカルマと直接関係するということではありません。「肉主霊従」から、自分自身で作り出した病気がかなり多いということです。



## どうしても治らない病気に直面した時には

ありとあらゆる手を尽くしても、「どうしても治らない、もうなす術がない」といった病気の場合は、カルマとの関連性が考えられます。「カルマ」による病気の場合は、どのような治療を受けても決して治りません。まさに時期がくるまで自然治癒力が十分働かないために、病気が治らないのです。

もし、自分がそうしたカルマによる病気の苦しみを体験せざるを得ないとするなら、それは“教訓”を学ぶ貴重な時と考えるべきです。そして内省的な時間を持つことによって、健康には代え難い大きな“靈的宝”を得ることができるはずです。また死が避けられない状況であるなら、それは病気の苦しみから解放される喜びの時であることを思い起こし、楽しみに待つことです。

## 8 “死”は人生のごほうび、 楽しみに迎えるもの

すでにシルバーバーチなどの靈訓を長年にわたって読んでいる人は、理屈の上では死後の世界があることを知っています。ところがそうした人々の多くが、配偶者や家族が不治の病になると急に取り乱すようになります。また本人自身が死に直面するような事態に遭遇すると、この世の人々と同じように嘆き悲しむようになります。

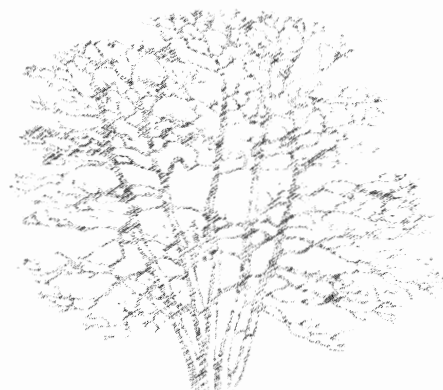
彼らはこれまで「靈訓」を愛読してきたにもかかわらず、死を非常に恐れているのです。自分や愛する者の死を目の前にして、「靈的真理」はどこかに吹き飛んでしまっています。中には何とかして死を避けたいという一念で、スピリチュアル・ヒーリングにすがってくる人もいます。

本当はそうした状況こそ、靈的真理を知った者の“真価”の見せどころなのです。靈的真理を実際に活かすときなのです。一体、何のためにこれまで靈界があることを学んできたのでしょうか。「死は、重苦しい肉体から解放され、より大きな自由を得られる素晴らしい時である」というシルバーバーチの言葉を、疑っているのでしょうか。

配偶者や家族が病気になった時に心がけることは、患者の痛みや苦しみを軽減してあげることであって、死を何とか避けさせようとするものではありません。死を悲劇の宿命としてではなく、人生のごほうび、あるいは喜びの時として迎えさせてあげることなのです。それがスピリチュアリズムの一番大切な教えです。“死”は自然の摂理（自然現象）にすぎず、恐れるに足りないことを教えてあげなければならないのです。

もっともシルバーバーチの靈訓の中にも、交霊会の参加者が配偶者との死別を悲しみ、シルバーバーチから慰められている状況が何度となく出てきます。しかし私達は、その当時の人々よりも、ずっと深くスピリチュアリズムを理解できる時代に生まれています。そうしたスピリチュアリズム初期の人々と、同じであってはなりません。

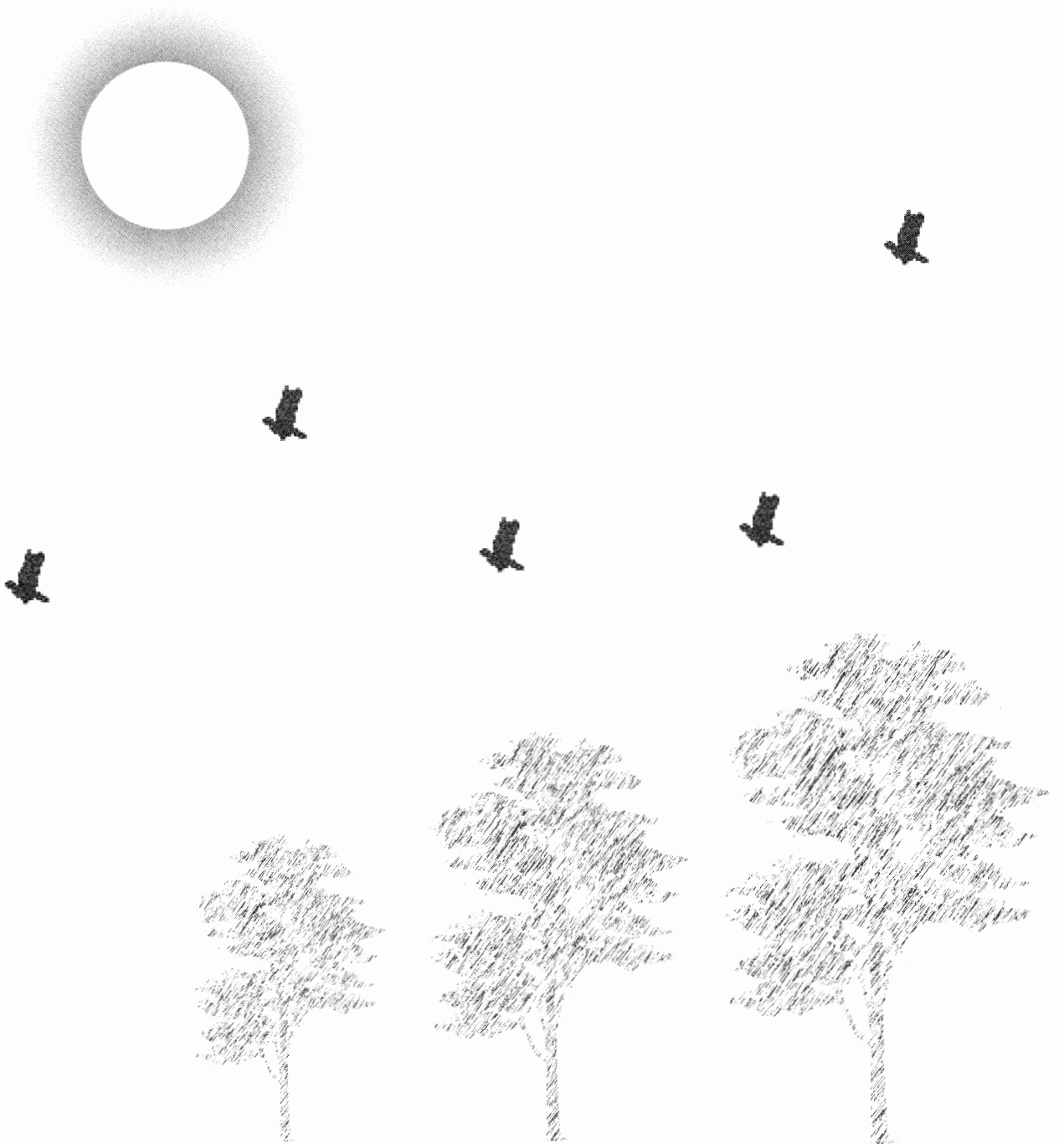
事故や天災による死は、靈的真理を知った者においても、つい不幸な出来事のように考えてしまいます。しかしすべての“死”は、新たな人生の出発点であることは間違いないのです。死は、素晴らしい靈的世界への旅立ちの時なのです。地上にいる者は、肉体の苦しみから解放され、楽になった故人のことを心から喜び、祝ってあげるべきです。たとえその死に方がどのようであれ、さしたることはありません。霊体だけになって、新たな人生を出発しようとしている本人が現実に目の前にいるのです。



もし身近な人の死について悲しむべきことがあるとするなら、それは故人が生前、死後の世界があることを知るチャンスを得ながら、それをみすみす見逃してきたことに対してです。あるいは地上人生の最後まで霊的自覚を持たず、一生を無駄に送ってしまったことに対してです。

かりに自分の死が避けられない状況に置かれたな

ら、残された地上の時間をどのように過ごしたらよいか、思いを巡らせるべきです。少しでもスピリチュアリズムに貢献するためには何をしたらよいか、考えなければなりません。そして霊の世界に思いを馳せ、死を喜びとして迎えられるように心を整えなければなりません。



# スピリチュアル・ヒーリングと 気功治療との違い

よく、「スピリチュアル・ヒーリングと気功は、どこが違うのですか」とか、「スピリチュアル・ヒーリングと気功では、どちらの方が病気を治せるのですか」というような質問を受けます。スピリチュアル・ヒーリングも気功も、治療風景を傍<sup>はた</sup>から見る限り、とても似ています。

最近では、気功に関する多くの本が出版されたり、テレビで取り上げられたために、「気功」という言葉は日本人の中でかなり知られるようになってきました。また気功はこれまで、日本と中国の科学者によって研究が進められてきた経過もあり、少しずつその実態が科学的に解明されるようになってきました。

それに対して「スピリチュアル・ヒーリング」は、日本人の間では、その名前さえまだ十分に知れわたってはいません。気功を知っている人はいても、スピリチュアル・ヒーリングを知っている人はあまりいません。しかし、それは日本や中国に限ったことであって、欧米では逆に、気功よりスピリチュアル・ヒーリングの方がよく知られています。

スピリチュアル・ヒーリング（心霊治療）は、その名前が示しているように、スピリットすなわち“霊”と深い関係があります。スピリットとか霊は、従来、純粋な宗教上のテーマとされてきたために、スピリチュアル・ヒーリングや心霊治療は、とかく宗教臭いイメージでとらえられがちです。心霊治療という言葉は初めて聞いた多くの人々が、違和感を持ちます。気功が現代科学を用いた研究の対象とされてきたのに対して、スピリチュアル・ヒーリングについての科学的なアプローチは、これまでほとんど行われてきませんでした。そうしたことから、日本の知識者の中には、気功は科学的だが心霊治療は非科学的であると考えられるような傾向が見られます。

ここでは、「スピリチュアル・ヒーリング」と「気

功治療」の違いについて学んでいきたいと思えます。

## 1 気功治療と「気エネルギー」

### 内気と外気

中国には何千年という“気の医学”の伝統があります。今さら言うまでもないことですが、鍼灸や漢方などの中国の医学は、すべて「気」という体内を流れるある種のエネルギーによって理論づけられています。気の通路を「経絡」と言いますが、気が経絡をスムーズに流れるなら健康が保たれ、経絡に気の滞りが生じると、その経絡に関連する臓器が病むようになることとされます。そして鍼や灸、あるいは導引などによってその流れを正常化することで、病んだ臓器は健康を回復することになります。これが“気の医学”の基本的な考え方です。

気の医学で言われている気は、人間の体内を流れるエネルギーのことであり、これは身体内部を巡る気ということで、「内気」と呼ばれます。それに対して、身体の外部に放射される気は「外気」と呼ばれます。気功治療は、この外気というエネルギーを患者に投射することによって病気を治そうというものです。



## 「手当療法」と気功は同じもの

こうした身体から放射されるエネルギーについては、これまでもよく知られていました。皆さん方もよくご存じの、「オーラ」がこれに相当します。仏像や聖人画などの背後に描かれる光背こうはいは、このオーラを示したものです。

身体から放射されるエネルギーを病人に当てて病気を治すことは、昔から行われてきました。痛いところに手を当てるといふ「手当療法」は、そうした治療法の中で、最もシンプルで原初的なものです。日本の新興宗教における「浄霊」や「お清め」の類いも同じものと言えます。そして「気功治療」も、実はこの手当療法と同じものなのです。

それが、さも独自で特殊な方法のように思われるようになったのは、中国政府の後押しにより、中国国内で積極的に気の研究が進められてきたことや、日本のマスコミが気功治療の様子を大きく取り上げたためです。また気功師のパフォーマンスが派手で、見る人に強いインパクトを与えたことや、日本国内で多くの本が出版されたり、健康ブームに乗って普及したことなどの理由が考えられます。

「気功」という名前は、意外に思われるかも知れませんが、今からわずか45年前（1955年）に、中国人気功師、劉貴珍りゅうきちんによって命名された全く新しい言葉です。中国の気の医学の歴史が何千年に及ぶことを考えれば、気功という名称による治療の歴史は、まだ始まったばかりなのです。

## 2 スピリチュアル・ヒーリングと「霊的エネルギー」

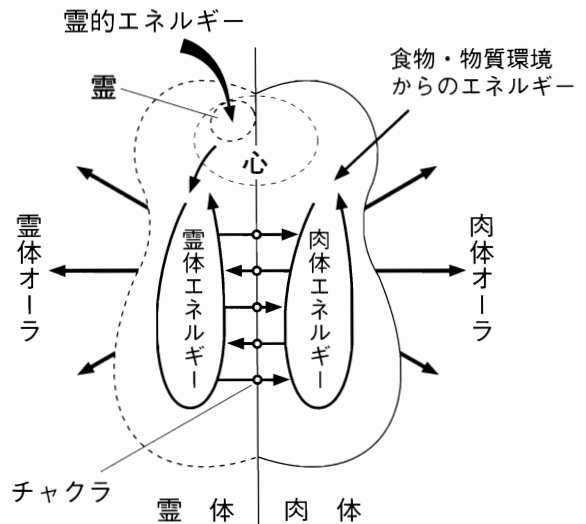
### 人体を巡るさまざまなエネルギー

気功のキーワードが「気エネルギー」であるとするなら、スピリチュアル・ヒーリングにおけるキーワードは「霊的エネルギー」です。スピリチュアル・ヒーリングについては、ニューズレター（7号）ですでに述べましたが、ここでもう一度、復習してみましょう。

スピリチュアル・ヒーリングを理解するには、私

達地上人が、目に見える肉体だけでなく、目に見えない霊体というもう一つの身体を持っていることを知る必要があります。人間は、この二つの異質の身体が重なり合って形成されているのです。そして、それぞれの身体にはエネルギーの流れています。

（図1）身体エネルギーの循環



この図は、私達地上人の身体における「エネルギーの循環」を示したものです。以下、図にそって説明していきます。

まず私達の心の最も高次の部分である霊的部位、これは一般に“霊”と呼ばれていますが、そこに、環境中に遍在している「霊的エネルギー」が取り込まれます。そしてその霊的エネルギーは霊体の内部を巡り、霊体を活性化させることとなります。さらにその霊的エネルギーの一部が、霊体と肉体の接触点である“チャクラ”を経由して、肉体に流れ込みます。肉体に入った霊的エネルギーは、そこで「肉体エネルギー」という物質次元のエネルギーに転換されます。そしてそれが肉体を巡ることとなります。この肉体を巡るエネルギーは、気功でいう内部の気、すなわち「内気」と同じものです。

一方、肉体には、大気や食べ物・水などを通じて、物質次元のエネルギーが取り入れられます。そしてその物質次元のエネルギーも肉体を巡ることとなります。その「肉体エネルギー」の一部が、“チャク

ラ”をへて霊体へも流れていくことになります。そこで、肉体エネルギーは「霊的エネルギー」に転換されることになります。

このように私達地上人においては、チャクラを媒介にして、霊的エネルギーが霊体から肉体に流れ込む一方、肉体エネルギーが肉体から霊体にもたらされるという、エネルギーの相互交流がなされています。そのエネルギーの交流については一定の法則があり、霊体から肉体に流されるエネルギーが、肉体から霊体に流されるエネルギーより強くなっているとき、身体全体としてのエネルギーバランスが保たれることになります。そして身体の健全さが維持されることになります。すなわち霊体と肉体では、常に“霊”が優位にあることが重要なのです。「霊主肉従」についてはニューズレターで何度も述べてきましたが、それを身体エネルギーの観点から見ると、このようになるのです。

**\*霊体と肉体の二つの身体からは、外部に向けてエネルギーが放射されています。そして、それぞれのエネルギーは、一般にはただ「オーラ」としてひとまとめに考えられています。しかし現実には、「霊体オーラ」と「肉体オーラ」の2種類があるのです。これら2種類のオーラは重複して一つの場所に存在しているために、1種類のオーラだけがあるように勘違いされているのです。**

### スピリチュアル・ヒーリングは、「霊的エネルギー」の充電による治療

さて、スピリチュアル・ヒーリングにおける最も重要なことは、霊界の医者（霊医）から発せられる「霊的エネルギー」が、地上のヒーラーを通過して患者にもたらされるということです。ヒーリングの出発が、霊界にいる医者からなされるということが、スピリチュアル・ヒーリングの最大の特徴なのです。

患者に届けられた霊的エネルギーによって、患者の霊的部位（霊）が充電されると、次に、霊から下位の霊体へとエネルギーが一気にもたらされることになります。それに伴い、霊→霊体→肉体という本来の霊的エネルギーの流れが取り戻され、人間全体のエネルギーバランスが正されることになります。

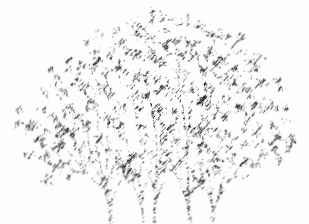
このように、スピリチュアル・ヒーリングによって、人間の最も根源的なエネルギーの流れに調和がもたらされることになるのです。

霊的エネルギーは、私達の生命活動における根源的エネルギーなのですが、大半の現代人においては、それが枯渇し、不足状態に陥っています。そのため上から下へエネルギーを流すことができず、全体がアンバランスとなり、病気が引き起こされているのです。スピリチュアル・ヒーリングは、この「霊的エネルギー」を頂上部分に投入し、上位の部分を充電・活性化することによって全身のエネルギー状態を調整し、バランスを取り戻させ、「自然治癒力」の働きを最大限に引き出そうとするものです。

以上のようなスピリチュアル・ヒーリングのメカニズムは、「スピリチュアリズム」によって明かされた“人間存在”についての正しい知識があって、初めて理解されることなのです。私達人間における体内エネルギーの流れが詳細に明かされたことで、可能となったのです。

それに対して気功では、人間の身体の構造やエネルギーの流れについては、ほとんど明らかにされていません。昔ながらの肉体内におけるエネルギーの流れ（経絡）が明らかにされているだけです。気功師の生体エネルギーを用いる気功治療の及ぶ範囲は、主として肉体次元に限られます。（\*ときには霊的次元にまで及ぶこともありますが、それはごく一部です。）

気功では、スピリチュアル・ヒーリングのように、人間の最も根源である“霊”の次元にまで影響を及ぼすことができないために、本質的な治療はできないのです。そのため気功治療によって一時的に病気が良くなることはあっても、時間がたつと、また病気がぶり返すようになります。気功では、スピリチュアル・ヒーリングのような根本的な治療はできません。

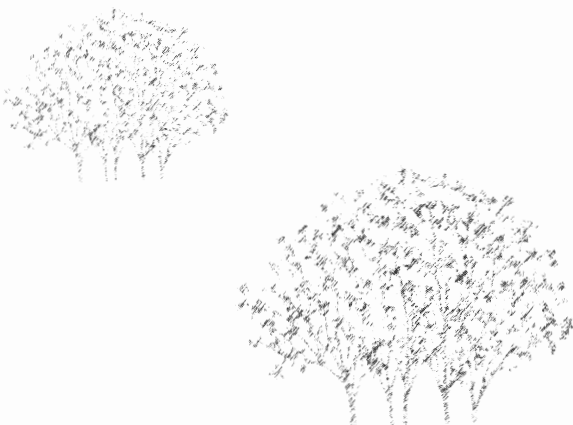


## スピリチュアル・ヒーリングの結果は、患者の「霊的エネルギーの受容性」とヒーラーの内容によって決定する

スピリチュアル・ヒーリングの素晴らしさを知れば、誰もが、すぐにでも治療を受けたいと思うようになります。スピリチュアル・ヒーリングを受けさえすれば、病気はたちどころに治りそうに思われます。しかし実際には、同じヒーラーの治療を受けながら、奇跡的に治る人と、何の変化もない人に分かれてしまいます。

そうした結果を生み出す原因は、患者サイドの「霊的エネルギーの受容性」にあります。スピリチュアル・ヒーリングが功を奏して病気が治るためには、患者に、霊的エネルギーを取り入れるための「霊的な窓」が開いていることが絶対的に必要とされます。霊的な窓が開いている人がヒーリングを受けるならば、奇跡的な治癒が間違いなく起こります。しかし、いまだ霊的な窓が閉ざされている人は、どれだけヒーリングを受けても、霊的エネルギーが身体の深部（霊）に入っていないのです。このため同じスピリチュアル・ヒーリングを受けても、奇跡的に治る人と治らない人に分かれてしまうのです。

良心的なヒーラーは、常に患者の病気が癒されることを願ってヒーリングに臨みますが、その結果については、ヒーラーの力の及ばない部分があります。ヒーラーはどこまでも、霊的エネルギーの通過する道具に過ぎないのであって、結果については関与することができません。



このようにスピリチュアル・ヒーリングの結果は、患者の霊的エネルギーの受容性、つまり「治る時期がきているかどうか」によって、その大半が決定されます。そしてこの患者の霊的要因以外に、ヒーラーサイドの条件も影響を与えることになります。ヒーラー自身の霊的能力・体調・さらには霊的進化のレベルや、その日の精神状態によって、流される治癒エネルギーの量と質が変化するのです。とは言っても、一番重要な要因は、患者サイドにあることは変わりありません。

このようにスピリチュアル・ヒーリングの結果は、患者サイドの要因とヒーラーサイドの要因が影響を及ぼし合って決定されることになります。

### 3 スピリチュアル・ヒーリングと気功治療の比較

#### スピリチュアル・ヒーラーと、気功師

初めに、スピリチュアル・ヒーラーと気功師の違いについて見ていくことにしましょう。スピリチュアル・ヒーリングと気功治療における最大の違いは、「治療の主演」にあります。スピリチュアル・ヒーリングの出発は、どこまでも「霊界の医者」です。治療の主演は霊界の医者であり、地上のヒーラーはその道具にすぎません。それに対し、気功治療の主演は、「気功師」という地上の人間なのです。

スピリチュアル・ヒーリングでは、地上のヒーラーは、霊医の「良き道具」になることが求められます。優れたスピリチュアル・ヒーラーとは、自分から治療エネルギーをつくり出せる人のことではなく、霊界から送られてくるエネルギーを、できるだけ純粹なまま患者に届けられる人のことなのです。治療に臨むに際しては、自分が治すのだというような力みがあってはなりません。スピリチュアル・ヒーラーに求められるのは、「自分のすべてを用いてください」と委ねる、道具としての受動的で謙虚な姿勢なのです。

一方、気功治療における気功師の役割は、自分でできるだけ多くのエネルギーをつくり出し、それを



患者に与えることです。気功師は自分の持っているエネルギーを与えるため、渾身の力を振り絞ることになります。そしてもっとパワーを上げるにはどうしたらよいのかと、さまざまなテクニックの開発に知恵を絞ることになります。こうした自力的で積極的な姿勢が気功治療師に共通しています。

### 元気になるスピリチュアル・ヒーラーと、疲労困憊こんばいに陥る気功師

スピリチュアル・ヒーリングでは、ヒーラーが治療に用いる霊的エネルギーは「霊界の医者」から与えられます。外部から次々とエネルギーが補給されます。ヒーラーはエネルギーの通過体という道具にすぎないため、気功師のように自分のエネルギーを消耗することはありません。疲れを感じることもありません。それどころか霊的エネルギーが自分のうちを通過する際にヒーラー自身も充電され、元気になるのが普通です。そのため本物のスピリチュアル・ヒーラーは、全身から透明感と清涼感が漂うようになります。

気功では、スピリチュアル・ヒーラーのように「霊界の医者」から、エネルギーが与えられることはありません。したがって気功師が患者に与える投射エネルギー（外気）は、結局は、気功師の身体内部にあらかじめ存在しているエネルギーに限定されることになります。気功師が投射する外気の大半は、自分の体内に存在するエネルギー（内気）から引き出されてきます。そのため外気としてエネルギーを患者に与えれば与えるほど、気功師自身は気を奪われて、疲れ果てることになります。多くの気功師が、治療の後、生気を失い疲労困憊こんばいするのはこのためです。治療後は自分で気を練って（練功）、気を取り入れる必要性が生じるのは、こうした理由があるからです。

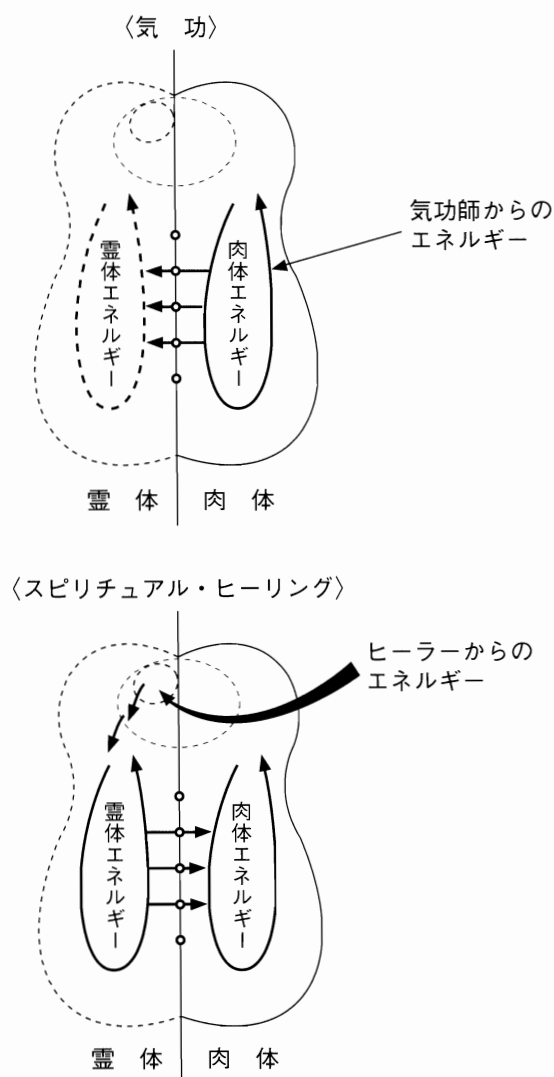
### 治療の及ぶ領域と、病気のぶり返し

スピリチュアル・ヒーリングでは、エネルギーの流れが、霊→霊体→肉体というプロセスをへる中で、身体のすべての部分に及びます。したがってスピリチュアル・ヒーリングが功を奏したときには、身体

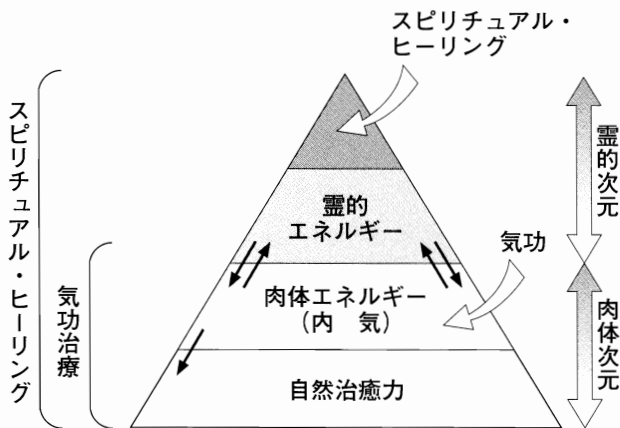
のアンバランスが根本から正され、肉体の自然治癒力が最大限に引き出されることとなります。そして長年の病気が奇跡的に治癒することとなります。

それに対して、気功治療におけるエネルギーの流れは、その大半が肉体次元・物質次元に限られるため、身体の一部にしか働きかけることができません。当然、身体全体における霊と肉のアンバランスを正すことはできません。肉体エネルギーを与えることで一時的に自然治癒力が引き出され、病気が治ったかのような現象が起きることがありますが、時間がたつと再び病気がぶり返すこととなります。気功治療では、その効果が霊的次元にまで及ばないために、このような結果が生じるのです。

（図2）スピリチュアル・ヒーリングと気功治療におけるエネルギーの流れ



(図3) 治療エネルギーから見た  
スピリチュアル・ヒーリングと気功治療



## 2種類の心霊治療 — 使用するエネルギーの違い

一般的に「心霊治療」と言われているものは、用いられるエネルギーの違いによって、大きく2種類に分けられます。霊界から送られてくるエネルギーを患者に与えて病気を治そうとするものと、ヒーラー（治療師）自身の持っているエネルギーを患者に与えて病気を治そうとするものの2つです。そして前者に属するのが、これまで述べてきた本当のスピリチュアル・ヒーリングなのです。

後者のヒーラー自身のエネルギーを与える心霊治療は、生体磁気治療とも言われます。生体エネルギーを枯渇させていた患者は、治療師からの生体エネルギーが届けられると、一時的に体が軽くなり、時には病気が奇跡的に癒されるようなことも起こります。現在、スピリチュアル・ヒーラーや心霊治療師を名乗る大半の人々が、この種のヒーラーに属します。

こうした心霊治療は、本当のスピリチュアル・ヒーリングとは言えません。なぜならスピリチュアル・ヒーリングにおける最も重要な要素である、「霊界からのエネルギー摂取」というプロセスが全くないからです。霊界の医者によってではなく、すべてヒーラー自身によって、治療が進められているからです。

したがって、こうした治療をあえてスピリチュアル・ヒーリングの名称で呼ぶとするなら、次元の低いスピリチュアル・ヒーリング、本物でないスピリ

チュアル・ヒーリングということになります。「気功治療」は、まさにこうした次元の低いスピリチュアル・ヒーリングに含まれます。

## \* 2種類の心霊治療のまとめ

- ・ 霊界から送られてくるエネルギーを使用するもの  
— 本当のスピリチュアル・ヒーリング
- ・ ヒーラー（治療師）自身のエネルギーを使用するもの  
— 低次元のスピリチュアル・ヒーリング  
(気功治療・生体磁気治療)

## スピリチュアル・ヒーリングか気功治療かを決定するのは、ヒーラーの「霊性」

とは言っても、気功治療や生体磁気治療が悪いということではありません。本当のスピリチュアル・ヒーリングと組み合わせることによって、いっそう治療範囲が広がり、治療能力が強化されることになります。

さらに重要なことを言えば、本人が本物のスピリチュアル・ヒーラーだと思っていなくても、霊界の医者との協力を得られるだけの霊的内容を持っていない人、霊的進化の未熟な人では、結果的にスピリチュアル・ヒーリングはできないということです。それとは逆に、本人は気功師であると思っていなくても、一定の霊的成長レベルに達した人の場合、気功の域を越えて、本当のスピリチュアル・ヒーリングと同じことをしている場合があるのです。

要は、ヒーラー（治療師）の霊的レベルによって、スピリチュアル・ヒーリングにまで至れる人と、気功治療のレベルにとどまる人に分かれるということなのです。霊界の働きかけを得られる人ならば、気功師を名乗っていても、本当のスピリチュアル・ヒーラーであることが実際あるのです。



### \*中国の「法輪功」の動きについて

数年前から、中国国内で「法輪功」という気功グループの動きが大きな問題になっています。中国政府は、法輪功拡大の動きに危機感を感じ、反体制活動として徹底した弾圧を行っています。

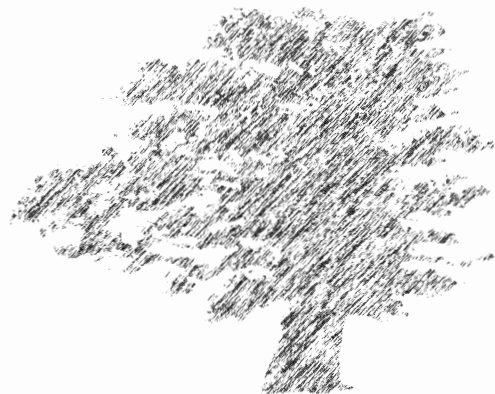
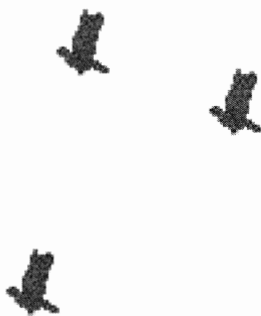
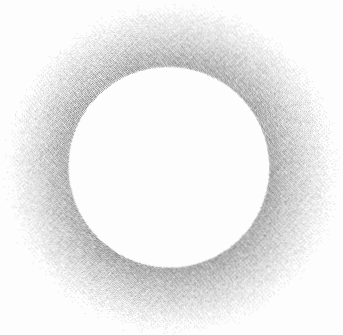
実は、この法輪功が急激に拡大している背景には、スピリチュアリズムの末端における霊界からの働きかけがあるのです。それによって、これまで社会主義体制の中で徹底して弾圧されてきた霊的・宗教的エネルギーが、一度に噴き出し、従来の唯物思想の支配状況を覆そうとしているのです。

物質主義・唯物主義の動きがあまりにも大きくなりすぎると、霊界側は地上に働きかけ、さまざまな心霊現象を引き起こしたり、あるいはインスピレーションを特定の地上人に送って、地上の思想的墮落に歯止めをかけてきました。法輪功の当事者達は、霊界のこうした働きかけを自覚しているわけではありませんが、一連のすべての動きは、霊界から興されているのです。スピリチュア

リズムが、アメリカにおいて「ニューエイジ」という形で展開してきたように、今、中国大陸では「気功」という形を通じて、低次元の霊的活動が展開を始めているのです。

現在の法輪功は、あくまでスピリチュアリズムの底辺部における動きにすぎませんが、物質主義・利己主義一色に覆われてしまった中国人の心霊を啓発するためには、今後、大きな影響力を持つことになるでしょう。たとえ法輪功が弾圧によって押し潰されることになったとしても、これに代わるサイキックレベルの動きが、必ず生じてきます。

法輪功に代表されるサイキックレベルの動きが拡大するに伴い、その中から純粋な霊的現象が頻発するようになります。それによって人々は否応なく、霊的世界のあることを知っていくようになるでしょう。唯物思想に基づく現在の中国が、危機感を募らせるのは当然のことなのです。法輪功拡大の先には、現体制の崩壊があり、スピリチュアリズムの展開があるからです。



# スピリチュアル・ヒーリングから見た ホリスティック医学

## 1 ホリスティック医学と自然治癒力

### アンチ現代西洋医学としての「代替医療」

30年ほど前から、従来の西洋医学とは異なる療法、すなわち東洋医学やアーユルヴェーダなどの民間療法、中国の気功治療、カイロプラクティックや手技療法、また各種自然療法、ヨーガ、さまざまなヒーリングなどが注目されるようになってきました。これらの療法に携わる人達は——「これまでの西洋医学では成人病は治せない」とさかんに現代医学を批判する一方、「自分達の治療法なら、現代医学では治せない病気も治せる」と声高に叫んできました。現代医学は実際、多くの点で慢性病に対しては無力であるため、こうした“アンチ現代医学”ともいべき療法が、病気に苦しむ多くの現代人の心をとらえることになりました。

今あげたような医療は、これまでの医学に替わる医療という意味で、「代替医療」と呼ばれています。数年前からアメリカでは、従来の通常医療にかかるお金より、こうした代替医療に投じるお金の方が多くなっています。もちろんそうしたアンチ現代西洋医学の動きに対して、医学サイドが反発しないはずがありません。代替医療などは非科学的で、サギまがいの行為を行っているという激しい批判をしてきました。実際は治ってもいないのに、勝手に治っていると嘘の情報を流して、人々をだましていると反論をしてきました。



### 「ホリスティック医学」—— 人間全体を丸ごと扱う医学

最近ではこの代替医療は、よく「ホリスティック医学」と呼ばれます。ホリスティックとは、「全体」とか「全部」を意味するギリシア語の“HOLOS（ホロス）”を語源とする言葉です。したがってホリスティック医学とは、生命体としての人間全体を扱う医学、人間を丸ごと扱う医学という意味になります。ホリスティックという言葉が用いられている背景には、これまでの現代医学が臓器主義と唯物主義に立脚していることに対する批判の意味が込められています。

従来の現代西洋医学では、人体を臓器という部品の集合体と見なし、もしその一つの部品が悪くなれば、それを取り替えればよいという考え方をします。最近話題となっている“臓器移植”は、まさにそうした臓器を一つ一つの部品のように考えるところから生まれたものです。現代医学が、人間の体を機械部品の寄せ集めのように考えるのは、人体はどこまでも“物質”にすぎないとする「唯物主義」に立脚しているからです。

そうした西洋医学に対して、ホリスティック医学では、人間を臓器という部品の集まりとは考えません。人間の身体全体を、そのまま生命体としての一つの単位として見ようとしています。もし体の一部に異常があるならば、それを体全体の異常の現れとしてとらえ、その臓器だけが悪いとは考えないのです。ホリスティック医学では、人間を単なる物質・物としては考えません。物を超えた「心や霊」といったものを含めたトータルの存在が人間であると考えなのです。

以上のような点で、ホリスティック医学と従来の医学は根本から異なります。

## ホリスティック医学の「自然治癒力」と、現代医学の「対症療法」

ホリスティック医学と西洋医学では、さらに大きな違いがあります。それは両者の“治療観”です。ホリスティック医学では、病気を治すのは身体にもともと備わっている「自然治癒力」として扱います。病気が治るのはこの自然治癒力の働きによる以上、医学とは「自然治癒力」に協力し、これをサポートすることに他ならないとします。

それに対して西洋医学では、自然治癒力が病気を治すという明確な思想的支柱がないために、治療とは、外部に現れた症状を抑えたり無くすこととなります。熱が出れば解熱剤で熱を下げ、痛みがあれば鎮痛剤で痛みを抑え、かゆみがあればステロイド・ホルモンでそれを抑えようとします。現代医学におけるガン治療には、それがはっきりと示されています。現在大半の病院では、薬や手術・放射線によってガン細胞を殺したり排除することだけを目的とした治療が行われています。このように西洋医学における治療は、どこまでも「対症療法」が中心となっているのです。

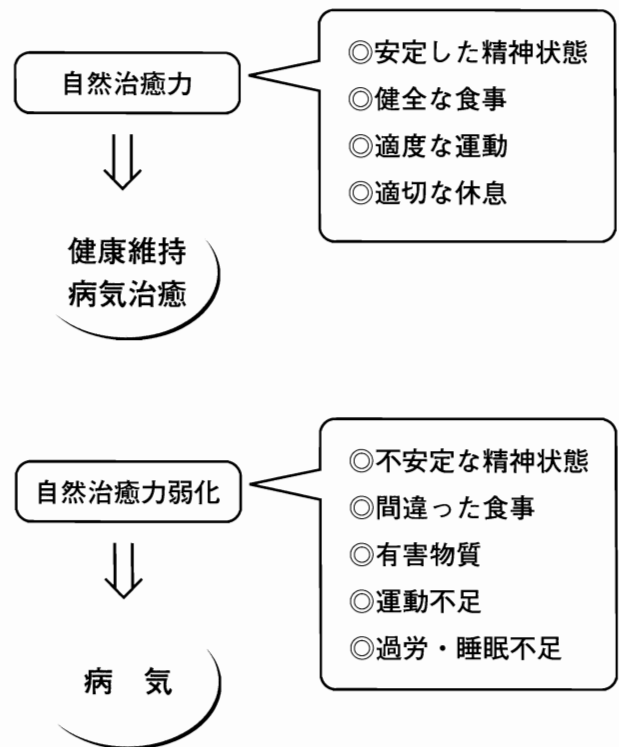
### 「自然治癒力」の働きを左右するもの

ホリスティック医学を説明するキーワードは、自然治癒力です。「自然治癒力が病気を治す」がホリスティック医学に共通する理念です。自然治癒力の働きが低下すれば人間は病気にかかり、逆に自然治癒力が高まれば病気は治ると考えます。ホリスティック医学における治療とは、自然治癒力を引き出すことなのです。自然治癒力を阻害する原因があるなら、それを取り除くことが治療になります。したがってホリスティック医学は、西洋医学の対症療法と比べ、より根本的な治療法を目指していると言えます。

では、この「自然治癒力」は、何によって引き出されたり、阻害されることになるのでしょうか。自然治癒力に対するプラスとマイナスの要因とは何でしょうか。結論を言えば、精神状態やストレスなどの心の要素、また食生活の内容や有害物質の体内蓄積、さらには適度な運動、適切な休息といった、さ

まざまな要因によって自然治癒力の働きは左右されます。

(図1) 自然治癒力を左右する要因



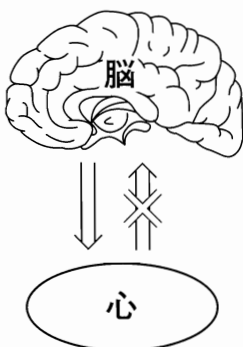
## 2 心身医学と「心の力」

### 心の存在を無視する現代医学

ホリスティック医学の中で大きな核となっているのが、「心身相関医学（心身医学）」です。従来の医学では、心の存在をほとんど無視してきました。唯物論に基づく現代医学では、「心」は「脳」という物質の産物にすぎないとします。心は脳の産物である以上、その心が逆に、脳に影響を与えたり、支配するというようなことはあり得ないとします。常に、脳が心や精神を支配し、影響を与えると考えるのです。したがって心や精神の異常は、薬を用いて脳や神経をコントロールすることによって抑えられるとします。現在の精神科では、こうした薬物療法が治療の中心になっています。

このように現代医学では、心の存在を完全に無視したり、切り捨てて考えるのが普通です。

(図2)



### 心の力を前面に押し出した「心身医学」

ところがホリスティック医学のワンパートである「心身相関医学（心身医学）」では、心の存在を明確に認め、さらにその心は身体に大きな影響力を持つという、これまでの医学とは全く異なった考え方を打ち出しました。「心身相関医学」という言葉に示されているように、心と身体はお互いに影響を及ぼし合うのだという考えを医療の中心に据えたのです。これまでは脳から心へという一方的な関係しか成立しないとされてきましたが、「心身医学」では、心と脳は相互的に影響し合うということ、心も身体に影響を与えることができるという考えを、現代医学の中に持ち込んだのです。

### 「病は気から」—— さまざまな心身症

とは言っても、心が身体と密接な関係があることを明らかにしたのは、心身医学が最初ではありません。人類は古来から体験的に、心の状態と病気の関係を知っていたのです。例えば東洋医学では、「病は気から」と言い、悩みや悲しみなどが病気を引き起こすことが知られていました。しかし近代において唯物的な現代医学が医学の中心を占めるようになり、そうした考え方は否定されることになりました。そして「心身医学」の登場によって、再び心が、医学の重要な位置に復活することになったのです。

心の病によって起こされる病気を「心身症」と言います。現在では、気管支ぜんそく、関節リウマチ、消化性潰瘍、高血圧、皮膚炎、大腸炎、心臓病などが、ストレスによって引き起こされる心身症として

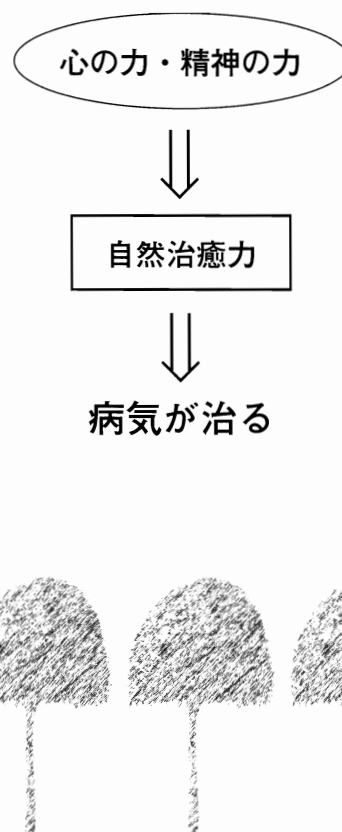
知られています。

### 心の力を積極的に利用する治療法

このように、心や精神的な不安定さが病気を引き起こすことが明らかにされるようになると、心の力を積極的に利用して病気を治そうという、新たな治療法が考えられることになりました。心や精神状態を正常化することで、「心身症」を治そうというものです。プラスのイメージを描くイメージ法や暗示法、またプラシーボを積極的に利用するセルフコントロール法などが行われるようになってきました。また、カウンセリングによって患者の考え方を換え、生きがいを見い出させ、精神的活力をもたらそうとする方法も採られています。こうした「心身医学」の治療法によって、現実には、これまでの治療では治らなかった患者が治癒するケースが多く見られます。

心身医学では、ある種の病気は、心の力を用いて自然治癒力を高め、治すことができると考えますが、これは、スピリチュアリズムの「霊主肉従」の考え方で極めて近いものと言えます。

(図3)



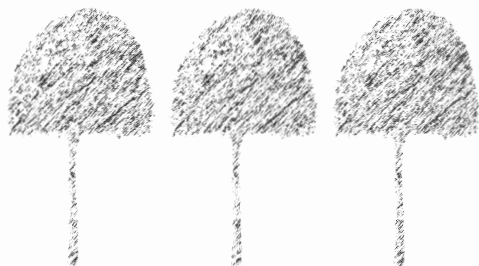
### 3 スピリチュアル・ヒーリングによる身体各部の活性化

すでに述べましたが、スピリチュアル・ヒーリングとは、ヒーラーを通して霊的エネルギーを患者に投射し、患者の霊的領域を活性化し、自然治癒力を高め、病気を治そうというものです。霊的領域とは、心の最も深い部分・最も高次な部分で、一般に「霊」と言われているところです。

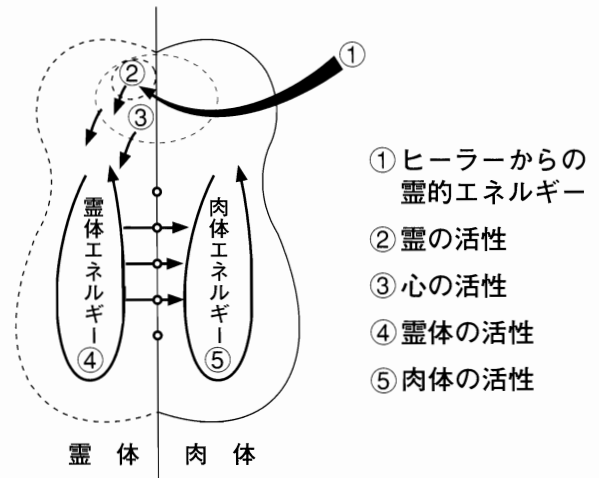
ヒーラーを通じて、霊的エネルギーが患者のチャクラから身体に取り入れられます。そのエネルギーは患者の「霊的部位」を充電し、そこを活性化します。すると自動的に、「心全体」が活性化し、心の力が高まります。心を満たした霊的エネルギーは霊体に流れ込み、霊体を活性化します。霊体に充電されたエネルギーの一部は、チャクラを通して肉体に入り、物質的なエネルギーに変換されます。それによって肉体のエネルギーレベルが上昇し、「自然治癒力」が急激に高められることになります。

心身医学では心の力を利用して自然治癒力を高め、病気を治すことを目指しますが、スピリチュアル・ヒーリングでは、そのプロセスを根源にまで溯らせ、徹底化します。すなわち、頂上部に霊的エネルギーを注ぎ込むことによって、心の力を最大限にまで高め、それによって自然治癒力を奇跡的に引き出そうとするのです。

心の力を利用するレベルにおいて、スピリチュアル・ヒーリングと心身医学では天と地ほどの大きな違いがあります。スピリチュアル・ヒーリングによって心の力を最大限にまで引き出すことができるのは、外部から「霊的エネルギーを注ぎ入れる」という特別な手段があるからなのです。



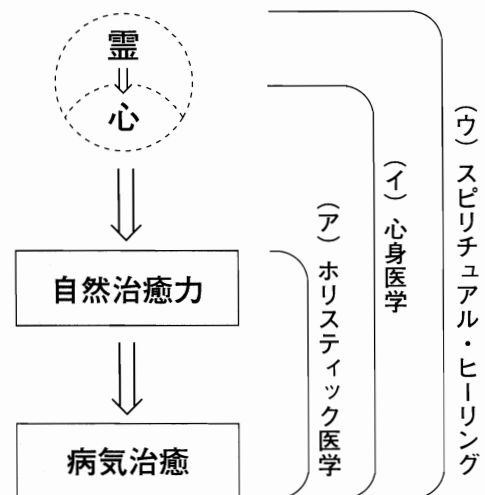
(図4) 霊的エネルギーによる身体各部の活性化



### 5 「ホリスティック医学」と「心身医学」と「スピリチュアル・ヒーリング」の関係

スピリチュアル・ヒーリングの治療メカニズムが理解されたところで、これまでの話を整理し、ホリスティック医学と心身医学、そしてスピリチュアル・ヒーリングの関係を対比してみましょう。

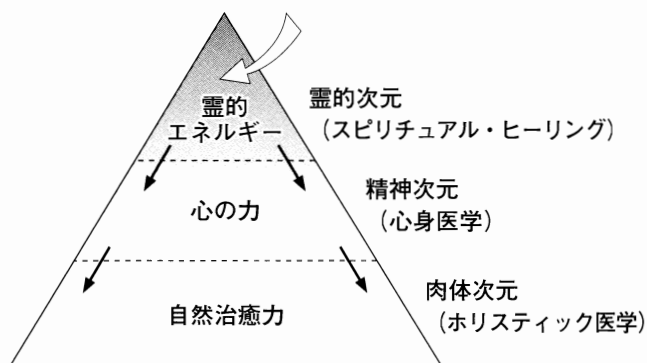
(図5) ホリスティック医学と心身医学とスピリチュアル・ヒーリングの関係



ホリスティック医学は図の（ア）の部分のカバーし、心身医学は（イ）の部分、そしてスピリチュアル・ヒーリングは（ウ）をカバーしています。この図から、心身医学は、ホリスティック医学を「心の力」を用いて徹底化したものであることが分かります。そしてスピリチュアル・ヒーリングは、その心身医学を、霊的エネルギーによってさらに先鋭化し高めたものであることが分かります。スピリチュアル・ヒーリングは、心身医学を霊的エネルギーを用いて強化し、心の持つ潜在的な力を最大限にまで引き出そうというものです。潜在意識の最深部からの治療をなそうというものです。

「ホリスティック医学」と「心身医学」と「スピリチュアル・ヒーリング」を、キーワードから整理してみましょう。ホリスティック医学のキーワードは「自然治癒力」、心身医学のキーワードは「心の力」、そしてスピリチュアル・ヒーリングのキーワードは「霊的エネルギー」です。それらの関係を図示すると次のようになります。

（図6）霊的エネルギーと心の力と自然治癒力の関係



この図から分かるように、霊的エネルギーがあつて、初めて人間の心は健全になり、自然治癒力が発揮され、健康が維持され病気が治るということになります。

「自然治癒力」に注目するホリスティック医学は、確かに従来の唯物医学の対症療法に比べると進歩したものとと言えます。しかしその視点の大半は、依然、肉体次元・物質次元に限定されています。一方、心

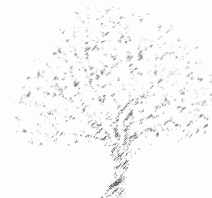
身医学が、自然治癒力を左右する要因として「心の力」に注目したことは大きな進歩です。より根源的な原因を考慮しているからです。しかしそれでも、心身医学における治療の領域は、精神的な次元にとどまっています。

精神次元より、さらに深い心の領域があります。それが「霊」なのです。その霊的部位の状態を左右する要因が、「霊的エネルギー」なのです。霊的エネルギーが充実してこそ、初めて心は活性化します。そして最大限にまで、「自然治癒力」を引き出すことができるようになるのです。

現代人の大半は、この霊的エネルギーが枯渇しています。したがってそうした現代人に最も根源的な治療を施すためには、霊的エネルギーを注ぎ込み、霊的部位を活性化させるところから出発しなければなりません。そして、それを可能にするのが「スピリチュアル・ヒーリング」なのです。

ホリスティック医学では、人間をトータル的に考えようとしています。人間を単なる肉体という物質だけではなく、霊・心も含めた全人的存在としてとらえようとしています。しかし残念なことに、現在のホリスティック医学の中には、霊的なものを認めようとする医師と、認めようとしぬ医師に分かれています。ホリスティック医学では、「霊」という言葉を用いてはいますが、本当のところ、霊については全く分かっていないのです。そうした現在のホリスティック医学が曖昧なままにしている霊的要素や霊に係わる問題点を明確にし、そこから根源的な治療をなそうというのが、まさに「スピリチュアル・ヒーリング」なのです。

以上のことから、スピリチュアル・ヒーリングが、ホリスティック医学の中にあつて、最も人間の深い領域に係わる治療法であることが理解されたと思います。





# ビデオ『地球人類の霊性進化の道 “スピリチュアリズム”』 —— 霊的真理のエッセンス・真理編より紹介

当サークルでは、スピリチュアリズムの正しい理解のために「霊的真理」のビデオを作成しました。ビデオでは、霊的真理をレクチャー（講義）形式で説明しています。誰にでもスピリチュアリズムの真理のアウトラインを正確に把握していただけるようにと願い、ゆったりと、分かりやすく解説しています。ビデオは『真理編・前編』（2時間）と、『真理編・後編』（3時間半）に分かれています。年内には、真理編に続く『実践編』も作成する予定です。

スピリチュアリズムの霊的真理の中で、理解しがたいのは「類魂」と「再生」についての内容ではないかと思います。ここではビデオの中の、類魂と再生についての一部分を紹介します。（\*このニューズレターでは、ビデオの解説を一部変更しています。）

## 1 「類魂」について

霊界ではその人の魂の成長レベルに見合った界層に行くことを述べましたが、その界層の中では、さらに魂の類似性を持った者同士が引き付け合い、グループをつくるようになります。「類が類をもって集まる」というようなことが現実に起こるのです。そうしたグループは、小さなものでは数十人から成り、大きなものでは数千人にも上ると言われています。

その一つのグループを構成する霊達は、まさに「霊的な家族」と言うべき親密な関係にあります。彼らは「霊的親和性」によって結ばれているため、お互いが自動的に引き付け合い、一つの大きな意識体をつくり出すことになります。そのようにしてつくり

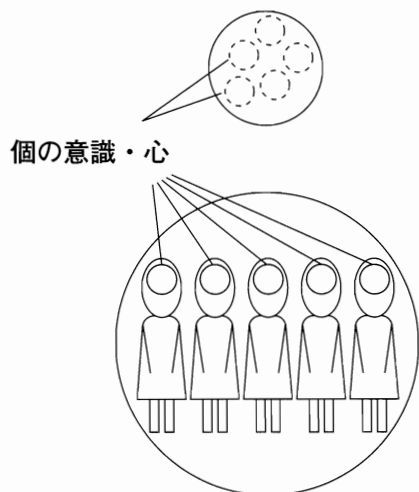
出された意識体を、「類魂（グループソウル）」と言います。類魂は、それぞれの霊達の単なる集まりのことではありません。各自のさまざまな意識から成り立っている、「意識の統一体」なのです。このように述べても、何のことを言っているのか理解しがたいのが普通だと思います。なぜなら今述べたようなことは、地上には全く存在しないことだからです。

実はこの「類魂」は、スピリチュアリズムにおける最も深い霊的事実の一つなのです。類魂の事実は、これまでの人類にはとうてい理解が及ばないものとして、明らかにされてきませんでした。しかしスピリチュアリズムの歴史が20世紀に至る段階を迎え、「マイヤース」や「シルバーバーチ」などの高級霊からの霊界通信によって、初めてその実態が明らかにされるようになってきました。アメリカのニューエイジでは、1970年代に、「セス」からのチャネリングによって、こうしたグループソウル・類魂について言及されるようになりました。



「類魂」について知るといふことは、霊界における奥義の一つを知るといふほどに重要な意味を持っています。しかし、もともと地上に存在しない類魂について、地上の言葉を用いて説明するということには大変な困難が伴います。説明する側、それを受け取る側、ともに極めて難しい状況に立たされるのです。しかしスピリチュアリズムに係わる高級霊の努力によって、現在では類魂について、かなりの部分まで明らかにされるようになっていきます。パネルをご覧ください。

(パネル1) 地上世界のグループ

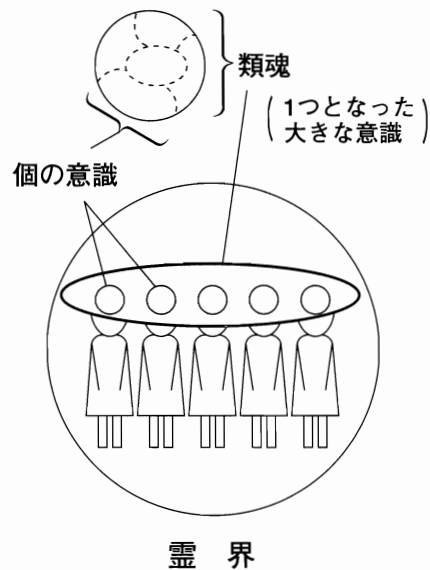


グループ (1人1人の集まり)  
地上世界

今、地上に5人の人間がいます。このグレイの部分(丸)は、一人一人の意識、または心だと考えてください。ここでは5人の意識ははっきりと区別されています。見て分かるように、5人が集まれば一つのグループができますが、それはただ、一つの場所に5人集まっているということだけです。上の図は、このグループを「意識」を中心に描いたものです。5人の意識・心が、それぞれが別々に分かれています。

そんなことは当たり前だと誰もが思うはずですが。ところが霊界では、そうした皆さんの考える常識が根本から覆され、想像もつかないようなことが生じるのです。次のパネルをご覧ください。

(パネル2) 霊界のグループ「類魂」



これは霊界の様子です。先程述べたように、霊界では同じ霊的レベルに達した者同士が集まり、一緒に生活するようになります。そして一つの霊的な家族というべきグループをつくります。

ここに5人の霊が集まって、霊的な家族・グループを形成しています。当然一人一人の霊は、地上のグループと同じように、個としての意識・心を持っています。ところが霊界ではそれだけにとどまらず、一人一人の意識・心が引き合って融合し、一つの「大きな意識体・大きな心」をつくり出すようになります。これが類魂(グループ化した一つの大きな魂・意識)です。これがその図で、グレイの楕円の部分が、意識が融合している状態を表しています。

このように霊界では、個としての意識がありながら、同時に一つの大きな意識の中に、それが溶け込むようになります。こうした「心の融合化・共有化・一体化」という、地上では決してあり得ないことが起こるようになります。これが「類魂」であり、多くの霊の意識からつくり出された、一つの大きな魂・大きな意識体なのです。

上の図(丸)は、その「類魂」だけを図示したものです。個の意識はそれぞれ点線で区別してあります。そしてその一つ一つの個の意識は、同時に大き

な魂の全体を共有する一部であることを示しています。ここには、一つの大きな心だけがあります。地上のグループの状態と比較してみると、違いははっきりします。地上では、どこまでも5つの別々の意識が存在していますが、霊界では、まず一つの大きな意識があり、その中に5つの意識が含まれている、包み込まれているということです。言ってみれば地上の集まりは、ソウル・グループです。一つ一つのソウルが集まってグループをつくっています。それに対し、霊界の類魂（グループ・ソウル）は、一つに集まってグループ化した「大きなソウル・大きな魂」ということです。

霊界において、この類魂（グループ・ソウル）の中に入ってみると、周りの霊達があまりにも自分に似ていることに驚きます。意識や考え方・性格が、自分とそっくりなことに驚きます。

### パネル3

#### 意識・考え方・性格が自分とそっくり

この親しさは、地上のどんな人間関係も及びません。オシドリ夫婦と呼ばれた夫婦であっても、生死を共にした兄弟や友人関係であっても、はるかに及びません。類魂のメンバー全員が、まさに自分の「心の兄弟・霊的兄弟」とであると実感するのです。

さらに驚くことは、他の霊の感情までが自分の心の中に入ってきて、自分の心に溶け込み、自分の感情の一部となるのです。すなわち他の霊との間に、「感情の共有化」ということが起こるのです。他の霊の喜びが、自分の喜びそのものとなります。また感情ばかりでなく、他の霊の考えていることや思考も共有することができます。他の霊の考えていることが、自分の考えのようになるのです。

### パネル4

#### 他の霊との感情・考えの共有化

こうして他の霊達全員の感情や考えが自分のものとなり、全員で共有するという、地上では考えられないような意識状態に入るようになります。またさらには、時に自分と他人という区別が希薄なものとなり、自意識がほとんど消え去り、自分の存在がメンバー全体の中に融合し、メンバー全体と自分が一つとなったような状態、個と全体の一体化・融合化というような驚くような状況が生じます。

### パネル5

#### 個と全体の意識の一体化・融合化

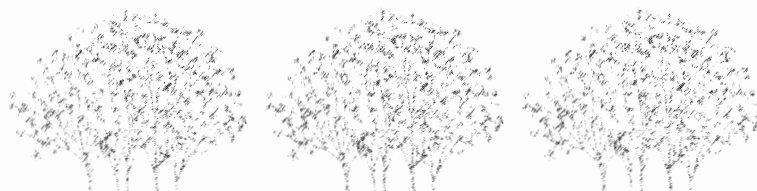
また類魂では、「地上時代の体験の共有化」がなされるようになります。

### パネル6

#### 地上時代の体験の共有化

類魂のメンバーの地上時代の人種はさまざまです。西洋人もいれば東洋人もいます。各自が地上で生きた時代もいろいろです。400年前に地上人生を送った者、100年前、さらには10年前まで地上にいた者など、さまざまです。

地上時代の職業も種々にわたっています。僧侶だった者もいれば、商人や医者だった者もいます。また教師、農夫などさまざまです。しかし「類魂」に入ってから、こうした人種・民族・時代・階級・文化的背景・職業などの区別は一切なくなります。地上時代の体験が、全員で共有されるようになります。まさに地上時代のさまざまな区別・差別が一切取り除かれた、「人類一家族」という理想的な人間関係ができ上がるのです。



心の世界を共有するなどということは、地上では考えられないことですが、類魂内では、「私の心はあなたの心」「あなたの心は私の心」、そして「自分の心はグループ全体の心」というような意識状態が生じます。自分の心という個としての意識は、類魂という一つの大きな共有意識体の中に融合しているのです。

この「類魂」という霊的事実は、高級霊によって明かされた真理の奥義です。それは地上には全く存在しないことであり、実感をもって理解することはできません。しかし類魂の存在は、「スピリチュアリズム」によって初めて明かされた紛れもない事実なのです。霊界と地上がいかに違う所かということが、この「類魂」の世界にもハッキリと示されています。以上で、類魂についての説明を終わります。

## 2 「再生」について

[始まり省略]

高級霊の明かしたところによれば、再生という現象は確実に存在します。そしてその再生は、先に述べた類魂との密接な関係の中で行われるものであることが明らかにされました。すなわち、「類魂と再生は一体不可分の関係にある」という重大な事実が、スピリチュアリズムによって初めて明らかにされたのです。

### パネル7

#### 類魂と再生は一体不可分の関係

従来、仏教などのように輪廻転生を説くものは数多くありましたが、輪廻再生の事実を正確に説明したものは人類歴史上存在しませんでした。それは霊界に対する詳細な事実と、類魂に対する明確な認識が持てなかったためなのです。ここでは、スピリチュアリズムによって人類史上初めて明らかにされた、類魂との関係における再生の事実を見ていくことにしましょう。[中途省略]

再生の目的の一つは、個人的につくったカルマを、地上の苦しみを経ることによって償うということですが、もう一つの目的は、類魂全体の進化・向上のために、新たな地上体験を求めることです。再生には、こうした二つの目的があるのです。

スピリチュアリズム以前にもたくさんの宗教があり、再生の事実を説いてきたものも数多く存在します。しかし、これまで述べてきたような霊界の事実を十分に知らなかったために、再生の目的について明確に理解することができなかったのです。今スピリチュアリズムによって、「再生の目的」をはっきりと知ることができるようになりました。

以上で再生の目的が明確になりましたが、再生の問題を論ずるときに問題となるのは、「何が再生するのか？」ということですが。再生とは、かつて地上に生きていた人間が、死後霊界で一定の期間をへて再び地上に生まれることです。したがって大半の人は、「何が再生するのか？」と聞かれれば、「そんなことは当たり前ではないか、昔の自分がそのまま次の地上人生に現れる、同じ人間が再生するに決まっている」と言うことでしょう。これまで再生については、例外なくそのように考えられてきました。

しかしそうした常識とも思われる答えが、実は事実とは言えないということ、スピリチュアリズムは明らかにしたのです。これは従来の再生観にとっては、天地をひっくり返すほどの常識を覆すようなことなのです。何が再生するかということについては、実は想像を絶するような複雑な問題が絡んでいることを、スピリチュアリズムは初めて明らかにしました。

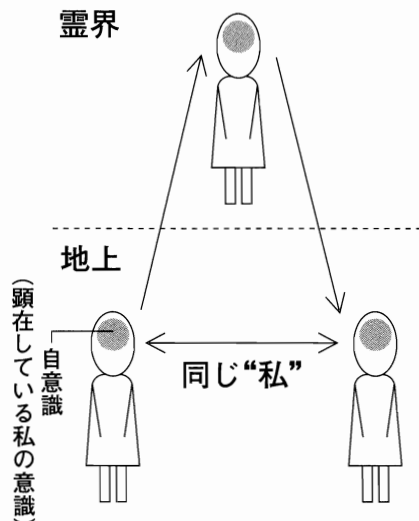


まず、この難解な問題を理解するには、「インディビジュアリティ」と「パーソナリティ」の区別を明確に知らなくてはなりません。今私達が、自分であると自覚している自意識と、自覚していない自分の意識の違いを明らかに区別しなければなりません。この点を明確にしないところで再生を論じるならば、「再生はある」とも言えるし、「再生はない」とも言えることになってしまうのです。しかしスピリチュアリズムの厳密な再生観に照らして見るならば、「一般の人々が考えているような再生はない」ということになります。

こうした極めて複雑で理解しがたいのが再生の問題なのです。ここでは、それを順を追って、一つ一つ明らかにしていくことにします。

本当の再生の状況について説明する前に、まず一般の人々が考えている再生について見ていくことにします。パネルをご覧ください。

#### (パネル8) 一般人の考える再生観



これは一般の人々が考えている再生観を示した図です。今ここ（左）に私がいます。この私が死んで霊界に行きます。そして一定の時をへて、地上に再生します。つまり左の私と、右の私は全く同じ人物です。再生について、多くの一般の人々はこのよう

に考えています。今の私という意識体が、次の再生時にもそのまま存在するという事です。もう一度言いますと、黒丸は、今地上で自覚している私の意識です。それがそのまま霊界に戻り、また同じ意識を持って再生するという事です。

これだけ見れば、実に常識的で誰もが理解できません。おそらくその通りではないかと思われるに違いありません。ところが、これはすべて間違いなのです。現実には、この図のような、同じ私が次の地上人生に存在するというようなことはないのです。

では「再生などないのではないか」ということになりませんが、霊的な事実として、ここで述べたような、同一人物・同一自意識体による再生は現実には存在しないのです。従って、世の中の大半の人々が信じているような再生はないということになります。その点においては、再生を認める人も認めない人も結局、みな間違っているということなのです。

では本当の再生とは、どのようなものなのでしょう。スピリチュアリズムによって人類史上初めて明らかにされた再生の事実とは、どのようなものなのでしょう。

スピリチュアリズムが教える「再生の事実」を理解するために、第一に知っておかなければならないことは、私達地上人が、今自覚している「自意識」についてです。普通、私達は、今意識している自分が自分のすべてであると考えていますが、本当は、「自分では意識していない別の自分」というものが存在しているのです。それどころかむしろ、自覚していない自分の方がずっと大きいのです。今自覚している自分は、ほんの一部の自分にすぎません。

スピリチュアリズムでは、今自覚している自分を「パーソナリティ」と言い、自覚していないさらに大きな自分の意識を「インディビジュアリティ」と言っています。パネルをご覧ください。



(パネル9) インディビジュアリティ



この丸（全体）が、私の靈的意識のすべてです。これを「インディビジュアリティ」と言います。下のグレイの部分が、今の自意識です。今地上において、自分だと自覚している意識、顕在している意識です。つまり今、自分だと思っている「自意識」は、このインディビジュアリティという大きな意識の一部にすぎないのです。

地上にいる間は、私達は自分のすべてを知ることにはできません。脳という物質器官を通して自意識を持つことになる地上の人間にとって、大きな自分を知ることにはほとんど不可能なことなのです。死んで霊だけになれば、「脳を介さない意識・霊の意識」が、そのまま存在するようになります。するとこれまで自覚していなかった自分を自覚するようになるのです。その時初めて、地上時代には隠されていた「大きな自分」を知ることができるようになるのです。

地上人は脳というフィルターをへて出た「自意識」を、自分自身のすべてと考えています。こうした自意識の上に、性格・育ち・体質など、さまざまな要素が加わって一つの「人物像（パーソナリティ）」ができ上がります。そして、その人物像がその人自身と見なされるようになるのです。しかし今述べたように、本当はそれは、その人のすべてではありま

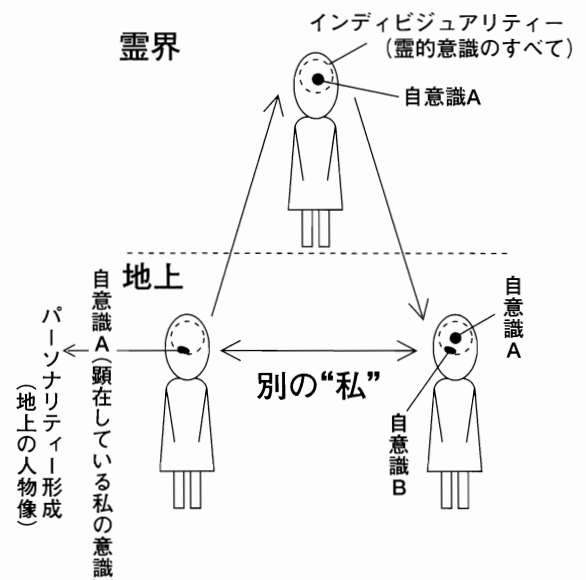
せん。「地上の人物像」とは、たとえば、その人の手の一部、足の一部のようなものなのです。

生まれ変わりを信じる大半の人達は、今の人物像・今の自意識をそのまま持った人物が、次の地上人生においても出現すると考えています。ところが実際に再生するのは、「大きな私（インディビジュアリティ）」の別の一部なのです。つまり再生において地上に現れるのは「別の人物像」なのです。こうしたことを地上の側から客観的に見たら、全く別人が出現するということになるのです。

これまで多くの人々は、再生について間違っただらえてきました。地上の人物像をその人のすべてと錯覚し、再生時にも全く同じ人物像・そっくり同じ意識体が出現すると考えてきました。しかしそれは事実ではありません。再生の事実を正しく理解することは、インディビジュアリティとパーソナリティの区別をした上で、初めて可能になることなのです。

ここでは今述べた、「インディビジュアリティ」と「パーソナリティ」の区別を踏まえた上で、スピリチュアリズムが明らかにした再生の事実を見ていくことにしましょう。パネルをご覧ください。

(パネル10) スピリチュアリズムによる再生観

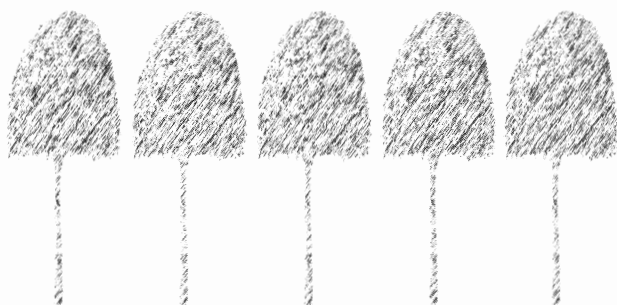


こちら（左）が今の自分です。黒丸で示しているのは「自意識」です。この（グレイ）の部分は「インディビジュアリティ」、つまり自覚していない大きな自分です。一般的に「潜在意識」と言われるものは、この中に含まれています。死んで霊界に行くと、この大きな自分を自覚するようになります。そして再生しますが、その時は、前世での「自意識」はインディビジュアリティの中に溶け込んでいます。そして新たに、インディビジュアリティの別の部分が「自意識」として自覚されるようになります。

便宜上これを「自意識A」とすると、再生時には「A」はインディビジュアリティの中に溶け込みなくなります。そして別の「自意識B」が“私”ということになります。今「自意識A」を“私”と思っていますから、次の再生時には“私”はなくなってしまいます。そして今とは別の“私”が現れることとなります。前世の私と再生時の私は別の人物ということになります。それは地上人の側から見れば、全くの別人が現れるということになります。従って「再生はない」と言ってもよいことになってしまうのです。

しかし、それを「インディビジュアリティ」の観点から見ると、違う部分であっても同一の霊が再現することには変わりはないため、「再生がある」と言うことができるのです。これがスピリチュアリズムによる正しい再生観です。

しかし再生はこれだけに留まらず、さらに別の要因が絡んでいっそう複雑なものになります。

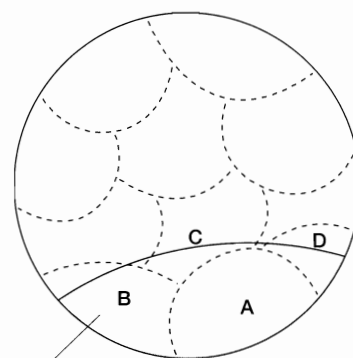


## パネル11

### 再生の特殊なケース①

その別の要因とは、再生に際して1つの霊のインディビジュアリティだけが再生に係わるのではなく、類魂を形成する大きな部分がインディビジュアリティとして再生するということが起こることです。こう言われても、何のことを言っているのか分からないと思います。パネルをご覧ください。

#### (パネル12) 類魂の大きな部分がインディビジュアリティとなる



類魂の大きな部分が一かたまりとして再生時のインディビジュアリティとなる

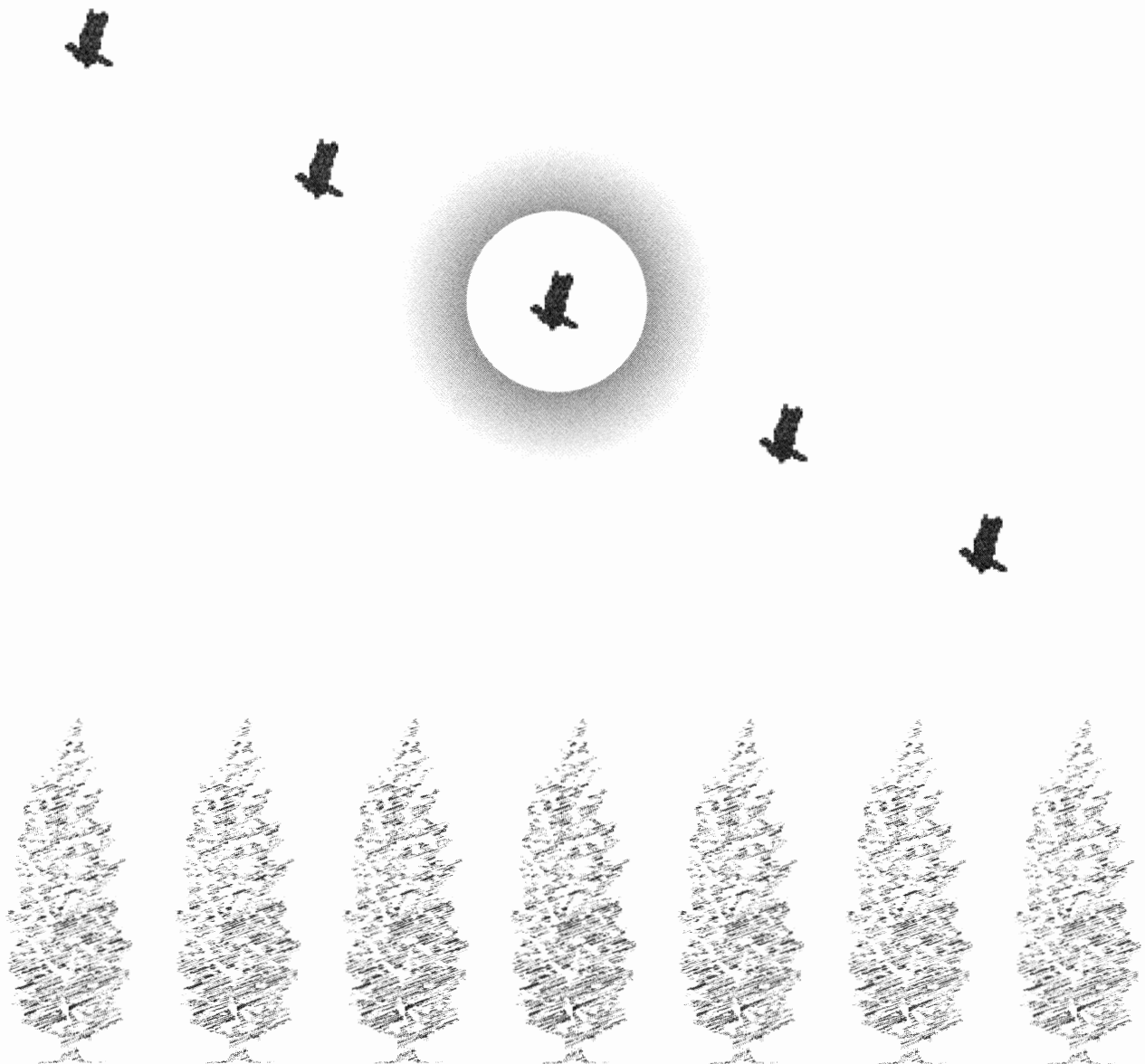
この丸（全体）は類魂です。点線で示したのは個々の霊のインディビジュアリティです。一人の霊のインディビジュアリティということになります。普通はこの一つのインディビジュアリティが再生すると考えられます。ところが現実には、他の霊のインディビジュアリティの部分も巻き込んで、それらが一つのインディビジュアリティとして地上に再生するというようなことが起こってくるのです。この図のグレイの部分が一つのインディビジュアリティとなって再生することです。

この一人の霊のインディビジュアリティをAとします。他の霊のインディビジュアリティを、それぞれBCDとします。このAにカルマを清算するという目的がある場合、地上への再生は霊Aが中心となりますが、地上に再生する際には、BCDという別の霊のインディビジュアリティの部分を総合して、一つのインディビジュアリティとなったも

のが再生することになります。類魂とは一つの大きな魂・一つの大きな心であり、その類魂の一部分が分霊して再生するということになります。

こうした再生のケースは、大きな使命を与えられ、地上で重大な霊的摂理を進める責任を持ったような者において生じます。こうしたケースでは、再生霊のインディビジュアリティの部分に加担する他の霊の知識や情報が一人の霊に凝縮され、大きな能力を持つことになります。そのために、地上において大きな仕事を遂行することができるようになります。

こうした「分霊再生」の実態は、私達地上人の理解の及ぶところではありませんし、また地上の言葉で正確にその実態を説明することはできません。ただ、このような分霊再生の場合は、霊BCDも間接的に地上で働くとも言えます。地上での仕事が進行中は、霊BCDのアイデンティティーは薄れて一つになっています。Aが使命を果たし、やがて霊界に戻り類魂に合流すると、ABCD4つのインディビジュアリティが、それぞれの霊によって再び自覚されるようになります。





## スピリチュアリズム・ビデオ&テープ ライブラリー

### VIDEO

#### ビデオ『地球人類の霊性進化の道 “スピリチュアリズム”』

— 霊的真理のエッセンス・真理編 —

(価格)

「真理編・前編」 2時間テープ 1本…… 2000円

「真理編・後編」 2時間テープ 2本…… 3500円

※別途、送料がかかります。

当サークルでは、スピリチュアリズムによってもたらされた「霊的真理」を、より多くの方々に正確に理解していただくために、「真理編」のビデオを作成しました。このビデオは、膨大な真理を簡潔にまとめ、誰にでも分かりやすい言葉で説明しています。入門者にかぎらず、これまで長年「霊訓」に親しんでこられた方にとっても、驚くような新鮮さと、真理の深い理解にともなう感動を得ていただけるものと確信しています。またこのビデオは、「読書会・学習会」を進める上においても、最適の教材になるものと思います。

すでにビデオをご覧になった方々から、多くの感動と感謝の声が寄せられております。「今まで本で読み、分かっていたつもりだったけれど、このビデオによって初めて、スピリチュアリズムの一番肝心な点が明確になりました」という感想を、何人もの方々からいただいております。

本を読むのは大変だという方も、ビデオによる学習ならば、ポイントを押さえながら、一気に全体を通して学ぶことができます。スピリチュアリストにとって、「霊的真理」を理解することは最も大切なことですが、このビデオは、そのための大きな助けになるものと思います。

## TAPE

### スピリチュアリズム関連書籍の 「朗読テープ」

「スピリチュアリズム入門」 90分テープ 4本…… 2000円

「続スピリチュアリズム入門」

90分テープ 5本  
60分テープ 1本 > 計6本 2800円

「500に及ぶあの世からの現地報告」

90分テープ 8本…………… 3500円

※別途、送料がかかります。

これまで数多くのスピリチュアリズム関係の書物を読まれたにもかかわらず、その本質を十分理解できないままの方々が大半いらっしゃいます。そのような方が、当サークル出版の『スピリチュアリズム入門』『続スピリチュアリズム入門』を読まれ——「初めてスピリチュアリズムの素晴らしさが分かりました。霊的真理のアウトラインが理解できました」と、感想を述べてくださっています。

そうした方々の中から、ぜひこれらの本をテープにしてほしいとの要望が寄せられておりましたが、この度、サークルのメンバーによって、『スピリチュアリズム入門』『続スピリチュアリズム入門』『500に及ぶあの世からの現地報告』の3冊の朗読テープが完成しました。

早速テープを聴かれた方々から——「真理が心に沁みわたり、深い霊的世界に包まれるような体験をしました」「一緒に霊的サークルに参加しているようで、落ち込んでいた心が引き上げられました」といった感想をいただきました。また、「サークルの学習会でこのテープを聴くことによって、全員が霊的啓発を受け、霊的な感動にひたることができました」とおっしゃる方もみえました。

皆さん一様に、本ではなかなか得られない霊的雰囲気、この朗読テープを通じて身近かに体験されるようです。予想を超えた反応に、私達も驚き嬉しく思っています。皆さんがこのテープによって、霊的真理の正確な理解とともに、深い霊的世界にふれ、心を高めてくださることを願っています。

(※なおこのテープは、自由にダビングしていただいて差し支えありません。)

## ❖ スピリチュアリズム・ライブラリー ❖

スピリチュアリズム・サークル「心の道場」では、スピリチュアリズム精選シリーズとして、下記の本を自費出版しています。

- ◆スピリチュアリズム入門 (169頁)  
ースピリチュアリズムが明かすー「心霊現象のメカニズム&すばらしい死後の世界」
- ◆続スピリチュアリズム入門 (256頁)  
ー高級霊訓が明かすー「霊的真理のエッセンス&霊的成長の道」
- ◆スピリチュアリズムの真髄「現象編」(297頁)  
『The Mediums' Book』 アラン・カルデック編著／近藤千雄 訳
- ◆霊の書(357頁)  
スピリチュアリズムの真髄「思想編」  
『The Spirits' Book』 アラン・カルデック編著／近藤千雄 訳
- ◆500に及ぶあの世からの現地報告 (437頁)  
ーエクトプラズムボックスを通じて明らかにされる死の直後の実生活ー  
『Life After Death』 ネヴィレ・ランドル著／小池 英 訳
- ◆マイヤースの通信ー永遠の大道(全訳) (271頁)  
『The Road to Immortality』 G・カミンズ著／近藤千雄 訳
- ◆マイヤースの通信ー個人的存在の彼方(全訳) (304頁)  
『Beyond Human Personality』 G・カミンズ著／近藤千雄 訳
- ◆霊訓(完訳・上)『The Spirit Teachings』(225頁)  
ステイントン・モーゼス著／近藤千雄 訳
- ◆霊訓(完訳・下)『The Spirit Teachings』(260頁)  
ステイントン・モーゼス著／近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチは語る(443頁)  
『Teachings of Silver Birch』 A. W. オースティン編／近藤千雄 訳
- 〈現在絶版となっている書籍の復刻予定〉
- ◆シルバーバーチの霊訓(※5月発行の予定が遅れています。今しばらくお待ちください。)  
ースピリチュアリズムによる霊性進化の道しるべー  
『A Voice in the Wilderness』 トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓(仮題)『The Seed of Truth』  
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓(仮題)『The Spirit Speaks』  
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳

## “スピリチュアリズム・ニュースレター” について

1998年4月に創刊したこのニュースレターも、発行を重ね、今回で14号をお届けする運びとなりました。その間、全国各地の多くの方々から送付のご希望や感想をお寄せいただき、スピリチュアリズム普及のために貢献できますことを、嬉しく思っていました。

これまでニュースレターは、ご希望があればどなたにでも、バックナンバーも含め継続してお送りしてまいりましたが、最近では、毎日のようにお問い合わせ・ご注文をいただくようになり、限られたスタッフでは、現実的に対応できなくなっております。そのため今後の送付につきましては、次のように変更させていただきます。

今までは、初めて送付希望のご連絡をいただいた場合、すべての方に、バックナンバーも含めて継続してお送りしてきました。（ご依頼のあったお知り合いの方へも、同様にお送りしてきました。）しかし今後は、創刊号～5号までとさせていただきます。

6号以降のニュースレターにつきましては、ホームページで主要内容はほとんど公開しておりますので、それをご覧になってください。

ただし当サークル出版の書籍をお求めいただいた方には、これまで同様、無料で継続送付させていただきます。

すべて少人数で、スピリチュアリズム普及の奉仕のために行っておりますので、このように方針を変更いたしましたことをご理解ください。

